

P1～P19のページタイトル、P5の位置図及び表について、委員の了承を得て文言を修正しています。

令和4年度 第1回
木曾川水系流域委員会
資料-3

令和4年度 第1回 木曾川水系流域委員会 【木曾川水系河川整備計画の点検】

令和5年2月17日

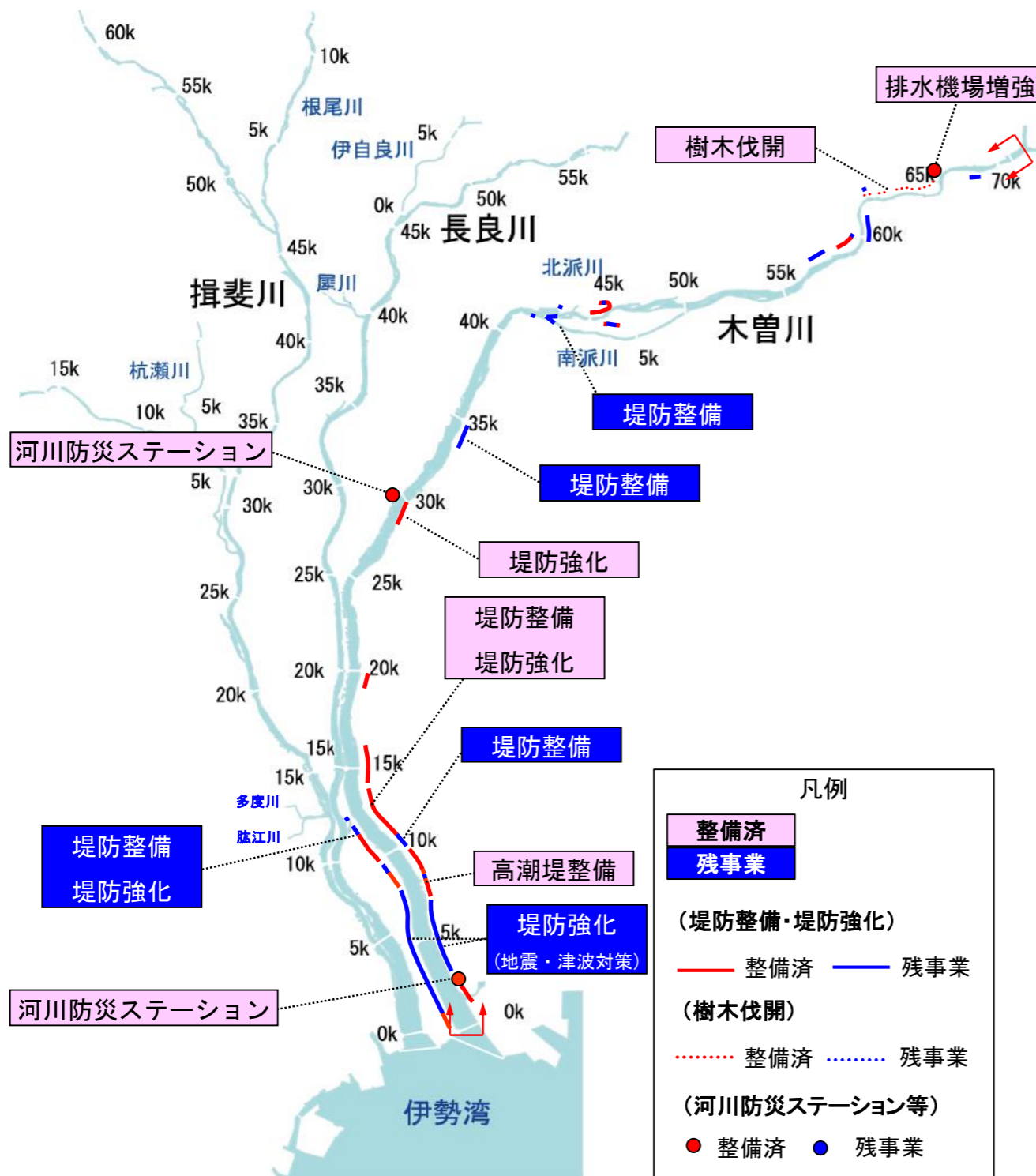
国土交通省 中部地方整備局

木曾川上流河川事務所、木曾川下流河川事務所

- 河川整備計画に計上されている直轄河川改修事業の進捗率は、事業費ベースで約65%です。
(前回再評価時点【令和元年度】では約53%)

整備計画の主な整備内容

【事業進捗図】



【主な事業実施状況】

整備項目	事業全体	整備済み	残事業
堤防整備	21.3km	14.3km	7.0km
高潮堤整備	3.9km	3.5km	0.4km
堤防強化※1	49.6km	20.9km	28.7km
河川防災ステーション	2箇所	2箇所	0箇所
排水機場増強	1箇所	1箇所	0箇所
樹木伐開	7ha	7ha	0ha
危機管理型ハード対策※2	4.7km	4.7km	0.0km

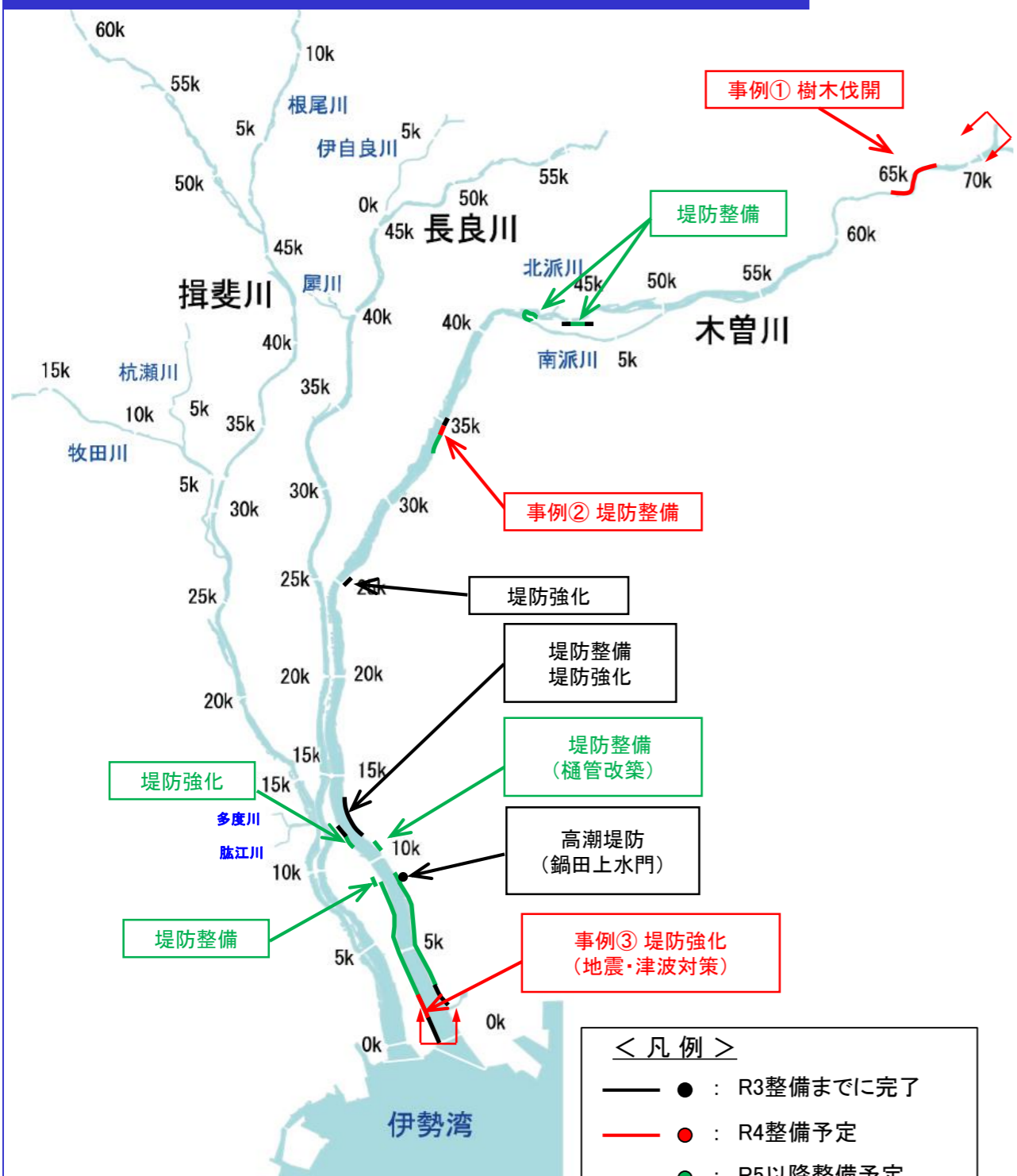
令和5年3月末予定

※1 堤防強化には浸透対策、護岸整備を含む

※2 道路天端の保護、堤防裏法尻の補強等

- 昭和58年9月洪水と同規模の洪水を安全に流下させるため、水害リスク情報を踏まえ、流域全体の治水安全度の早期向上を念頭に、中下流部の堤防整備、堤防強化等を実施しています。
- また、河口部においては、近年発生が懸念されている大規模地震に備え、地震・津波対策を実施しています。

令和2年度～令和7年度の主な整備位置図



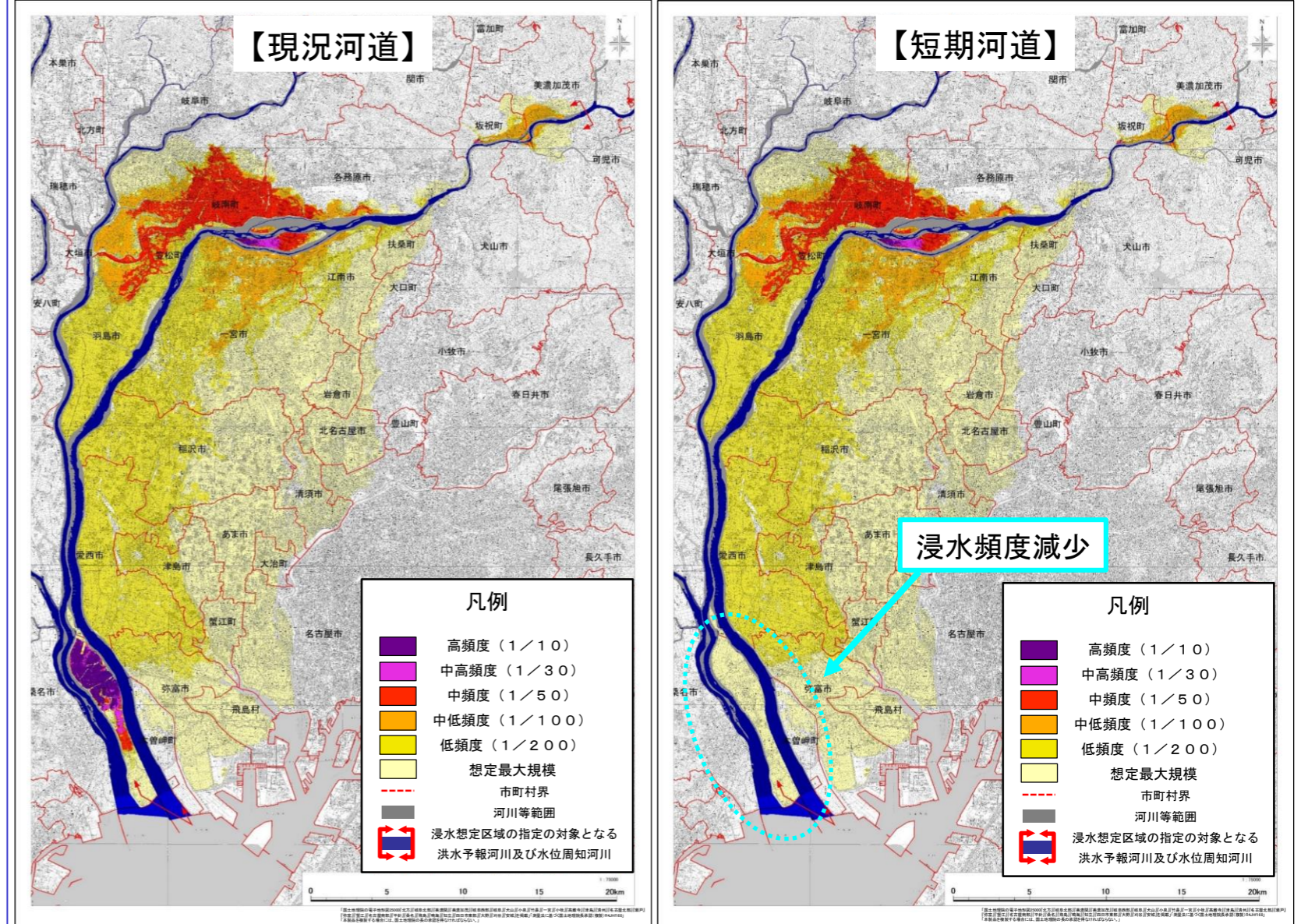
< 凡例 >

●	R3整備までに完了
●	R4整備予定
●	R5以降整備予定

※令和7年度までに一部完成しない箇所も含めて表示しています。
※令和5年2月時点の見込みであり、今後変更する可能性があります。

令和2年度～令和7年度の整備効果 (治水)

木曽川水系 木曽川の氾濫を想定した水害リスクマップ (令和4年9月公表)



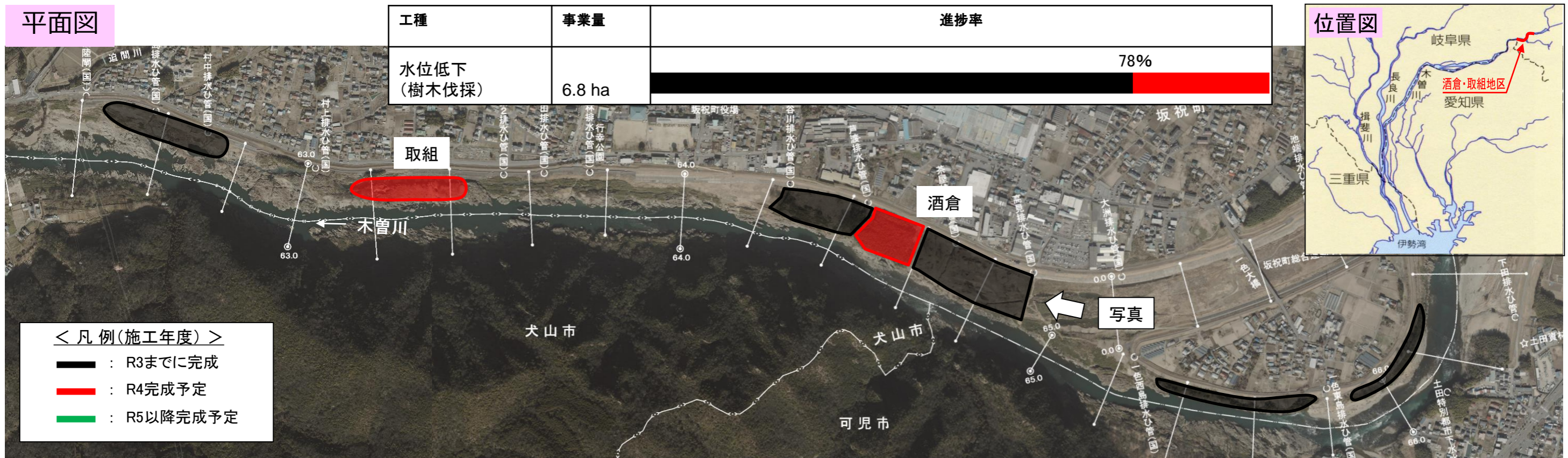
1. 説明文
(1) この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、現況(令和2年度末)、短期(令和7年度末)の木曽川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100、1/200(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率がそれぞれ1/10(10%)、1/30(3%)、1/50(2%)、1/100(1%)、1/200(0.5%)の降雨に伴う洪水により木曽川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出し、年超過確率ごとの浸水範囲(浸水深0cm以上)を示したものです。
(2) このシミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果です。この浸水が想定される範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合や、年超過確率及び浸水頻度が異なる場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨量(昭和58年9月型)を用いているなどの理由から、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。
(3) 想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき令和2年4月に指定・公表したものを表示しているため、前提としている降雨や河道条件等が異なります。

2. 基本事項等
(1) 公表年月日 令和4年9月30日
(2) 作成主体及び対象となる河川 国土交通省中部地方整備局・木曽川上流河川事務所、木曽川下流河川事務所・木曽川水系木曽川
(3) 実施区間 木曽川上流河川事務所、木曽川下流河川事務所・木曽川 左岸 岐阜県可児市川合字西野2795番217地先から海まで 右岸 岐阜県美濃加茂市川合町1丁目赤池上351番地先から海まで
(4) 算出の前提となる降雨 年超過確率1/10(木曽川流域の2日間の総雨量241mm)、年超過確率1/30(木曽川流域の2日間の総雨量226mm)、年超過確率1/50(木曽川流域の2日間の総雨量210mm)、年超過確率1/100(木曽川流域の2日間の総雨量195mm)、年超過確率1/200(木曽川流域の2日間の総雨量180mm)
(5) 河道条件 現況(令和2年度末) 短期(令和7年度末) ※国管理区間の整備のみ考慮しており、今後の事業進捗等によって変更となる場合があります。
(6) 関係市町村 岐阜市、羽島市、美濃加茂市、各務原市、可児市、岐阜市、笠松町、坂祝町、名古屋市、一宮市、津島市、犬山市、江南市、小牧市、稲沢市、岩倉市、愛西市、清須市、北名古屋市、弥富市、あま市、大口町、扶桑町、大治町、蟹江町、飛島村、桑名市、木曽町
(7) その他計算条件等
① 氾濫計算は、対象区間をおよそ25m間隔の格子(計算メッシュ)に分割して、これを1単位として水深を計算しているため、微地形による影響が反映できない場合があります。
② 洪水浸水想定区域は、氾濫計算結果から計算メッシュごとの想定浸水水位を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続盛土構造物(道路や鉄道の盛土など)等を考慮して図化しています。
※この水害リスクマップは流域治水の推進を目的としたものであり、水防法に基づく図ではありません。

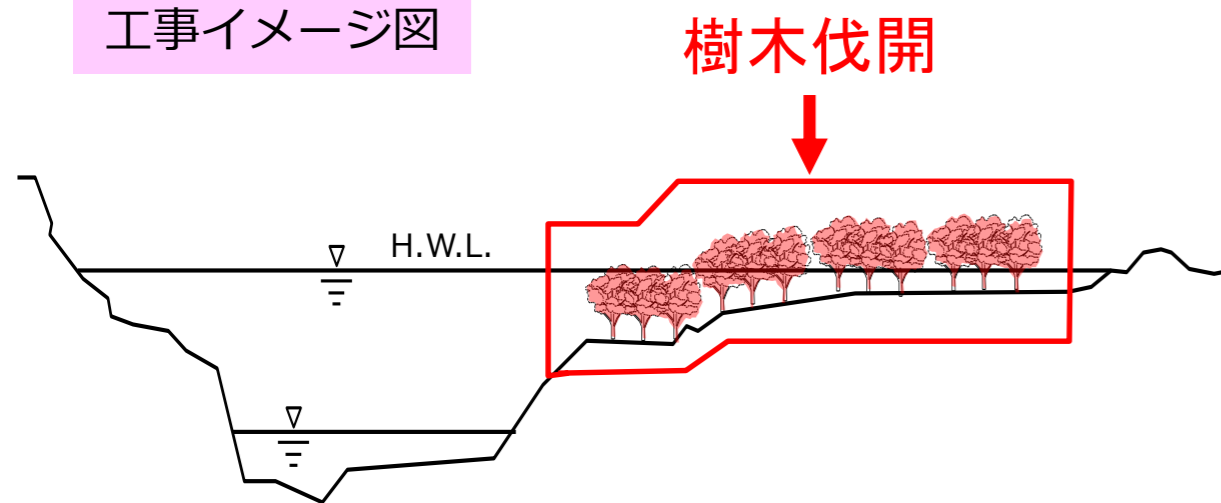
事例① 樹木伐開【酒倉・取組地区】

- 木曽川上流域の水位低下対策として、酒倉・取組地区の樹木伐開を実施しています。
- 酒倉・取組地区の樹木伐開が完了することで、木曽川の水位低下対策は完了する見込みです。

平面図



工事イメージ図



伐開前



令和2年9月撮影

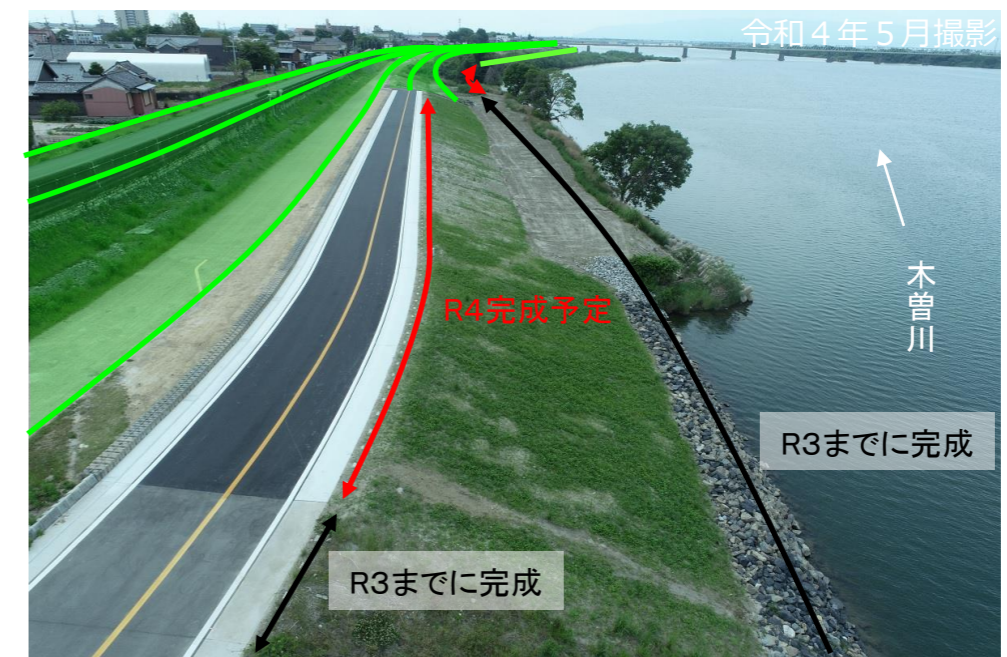
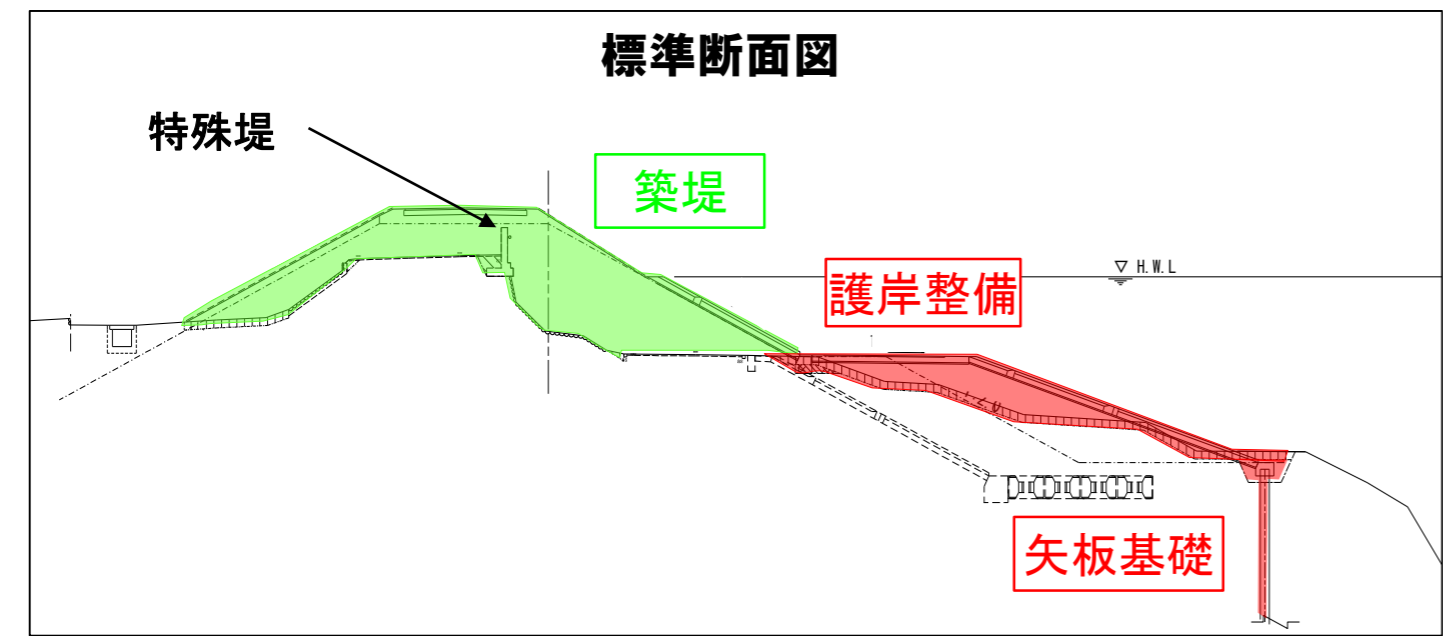
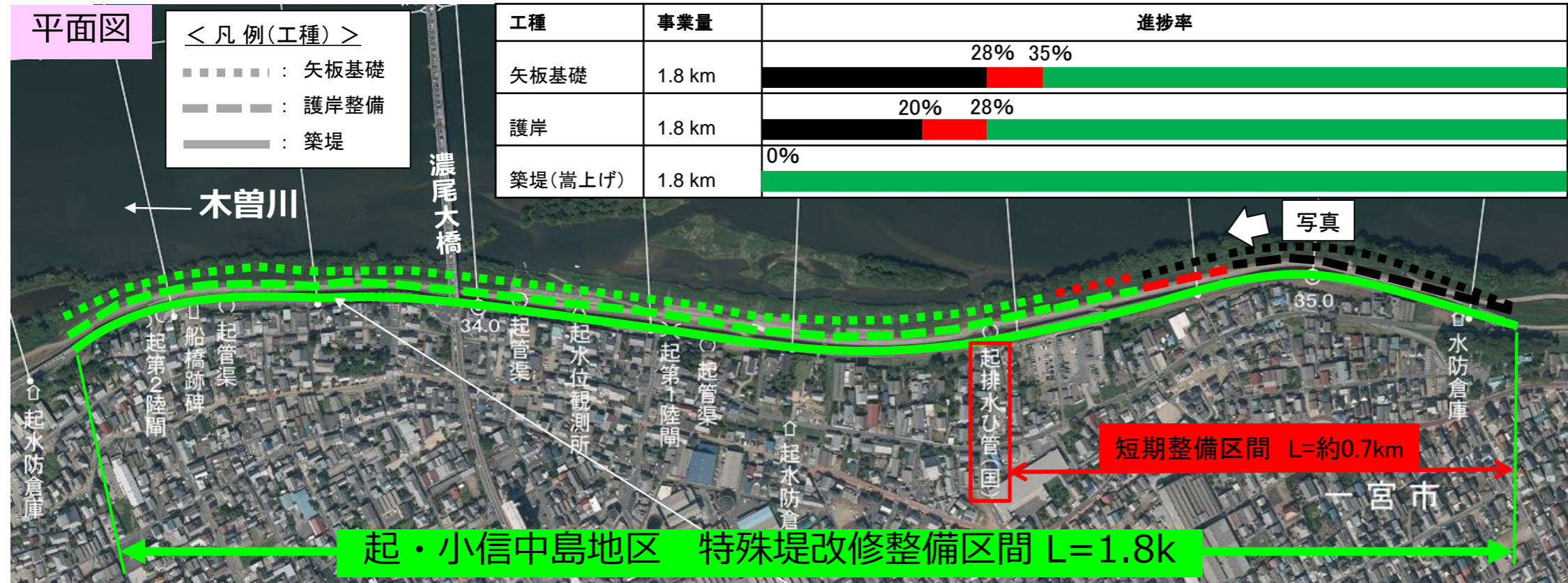
伐開後



令和3年2月撮影

事例② 堤防整備 おこし このぶ なかしま 【起・小信中島地区】

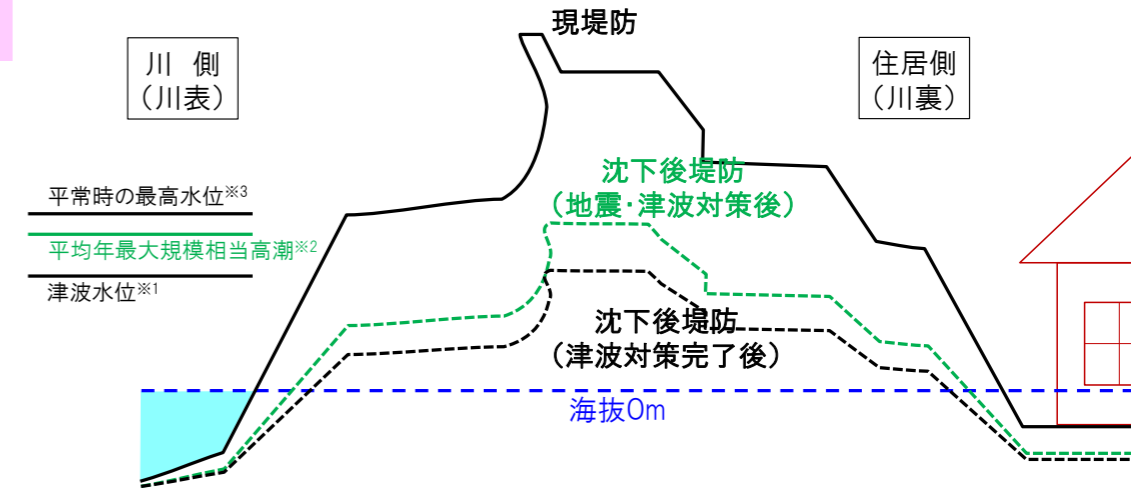
- 木曽川起・小信中島地区の堤防は、パラペット形状の特殊堤で、堤防高（0.3m程度）及び断面が不足しています。築堤後45年以上が経過しており、老朽化も進行していることから、治水安全度向上のため堤防の改修を行うこととしています。
- 令和7年度までに上流端～起排水樋管まで(約0.7km)の堤防整備を完了させることを目標に、現在は矢板基礎及び護岸の整備をしています。



事例③ 堤防強化（地震・津波対策）【松陰地区など】

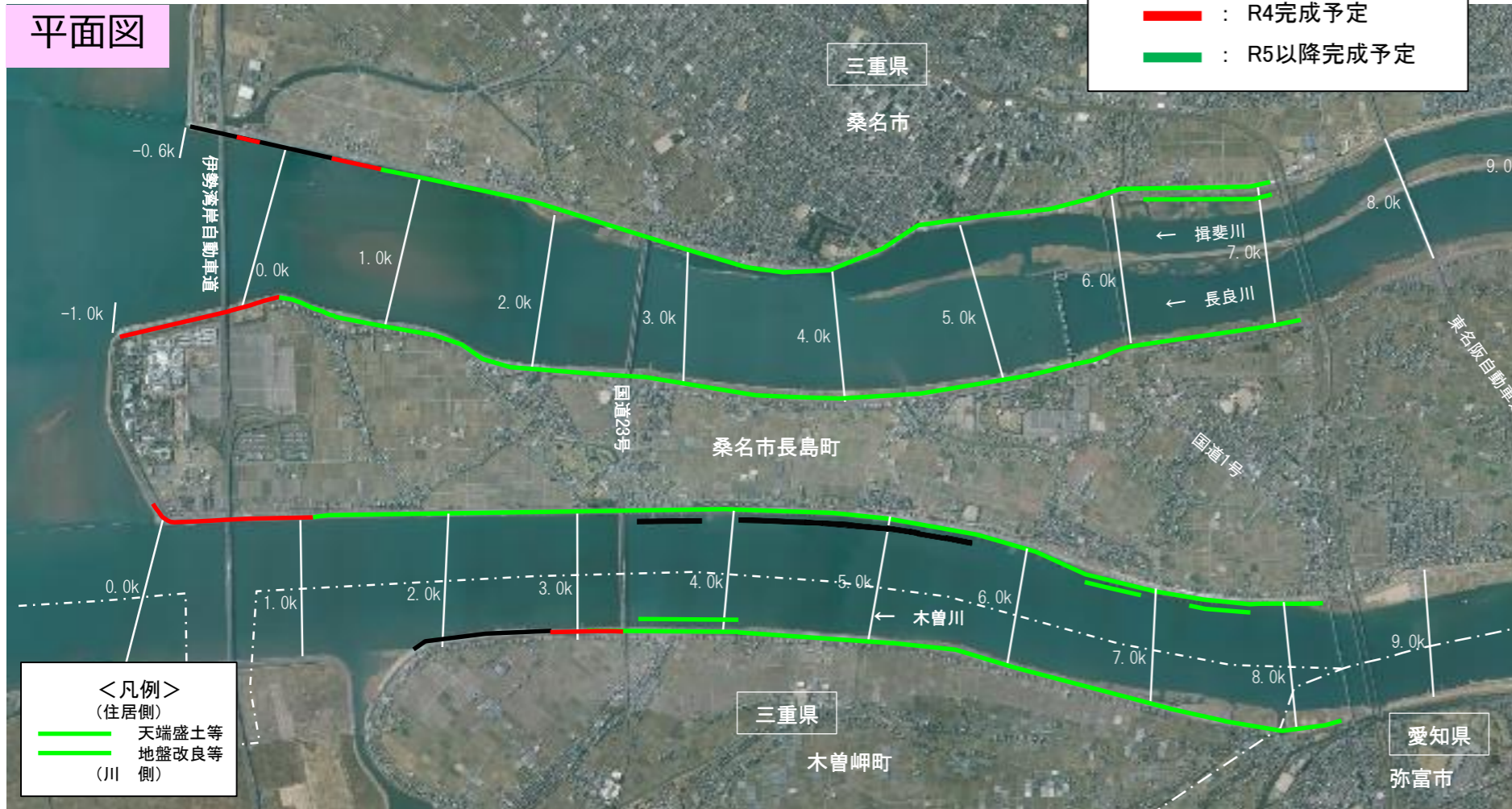
- 地震による沈下の影響が大きい高潮区間において、堤防の天端盛土等を緊急対策として実施しています。
- 緊急対策を行っても地震後の堤防の沈下等が生じた状態で、近年の平均年最大規模相当の高潮による浸水被害の恐れのある区間について、地盤改良等を実施します。

概念図



※1)津波水位:数十年から百数十年に一度程度の頻度で到達すると想定される津波による水位
 ※2)近年の平均年最大規模相当の高潮
 ※3)平常時の最高水位:被災した堤防を復旧する期間内に発生するおそれのある最高水位で、朔望平均満潮位に波浪を考慮したもの、または同期間内に発生する恐れのある出水による水位

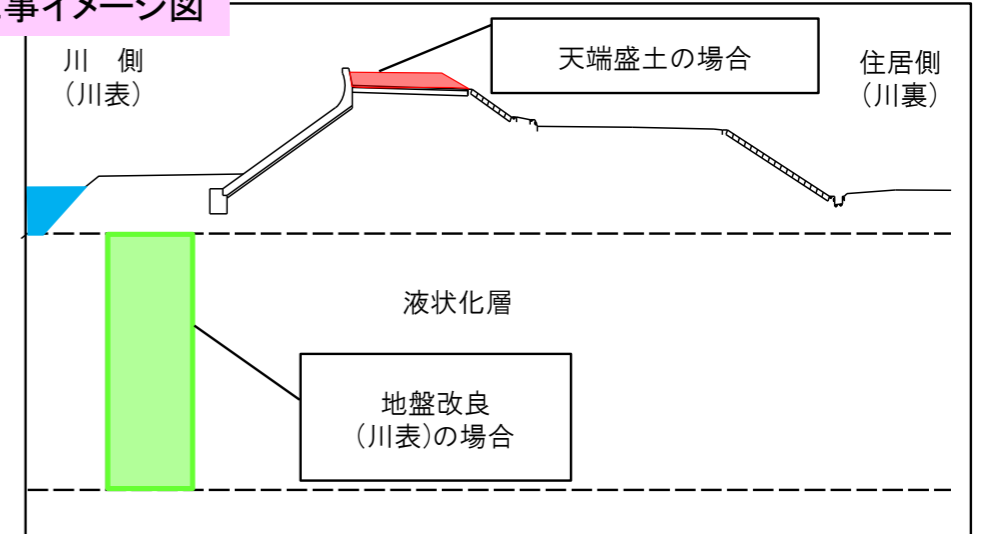
平面図



< 凡例(施工年度) >

- : R3までに完成
- : R4完成予定
- : R5以降完成予定

工事イメージ図



工種	事業量	進捗率
木曾川		55%
地盤改良	3.71km	
天端盛土	14.62km	8% 18%

工種	事業量	進捗率
長良川		
地盤改良		対策必要区間なし
天端盛土	4.62km	0%

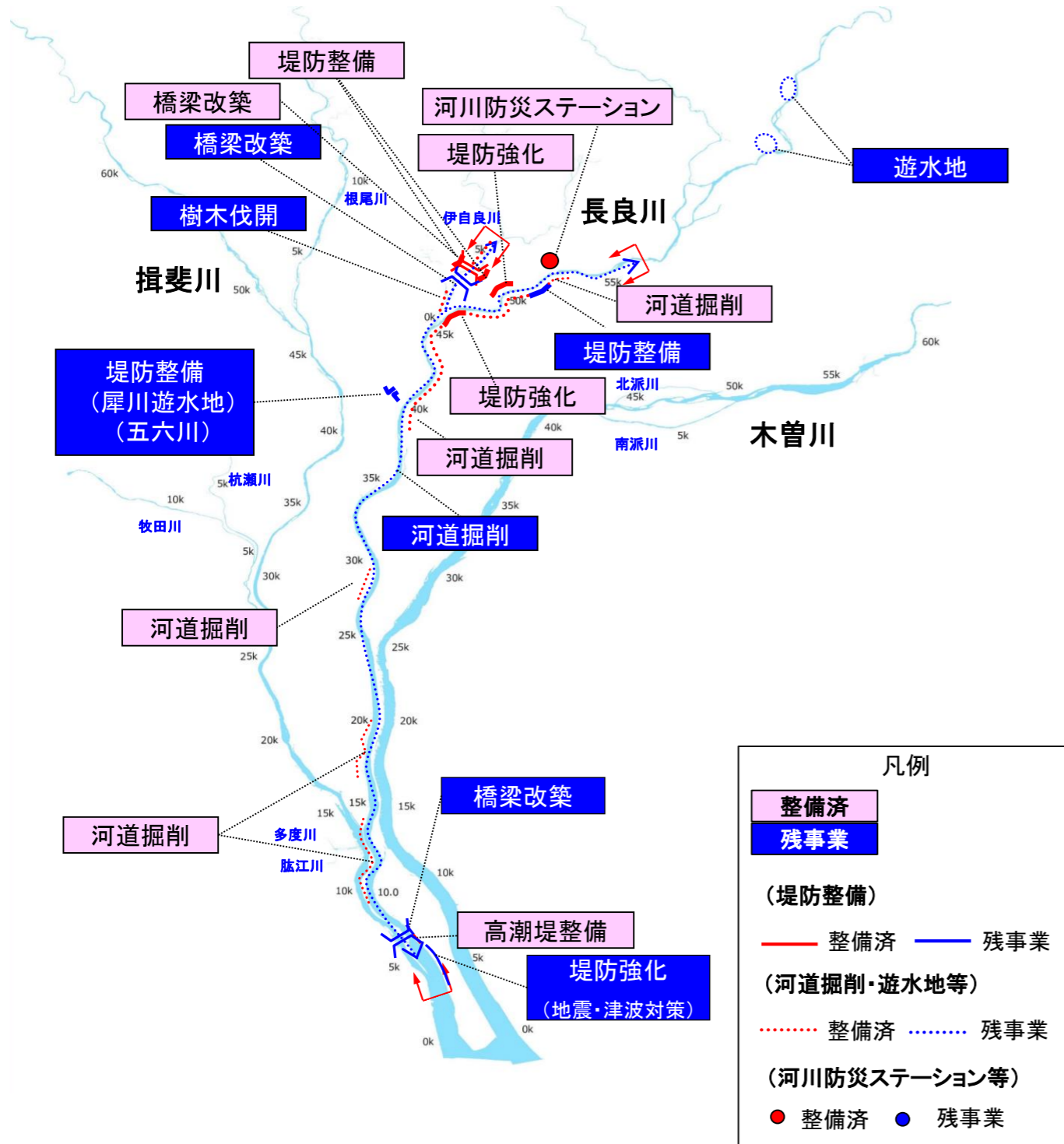
工種	事業量	進捗率
揖斐川		
地盤改良	1.00km	0%
天端盛土	11.73km	7% 22%

注1)木曾川水系河川整備計画における対策実施箇所の範囲(対策済も含む)を示したものです。
 注2)ここで示した対象工事の範囲は、現時点での想定のため、今後、変更する場合があります。
 注3)着色範囲は、作図の精度や縮尺の関係上、位置や長さが現地と異なる場合があります。

- 河川整備計画に計上されている直轄河川改修事業の進捗率は、事業費ベースで約42%です。
(前回再評価時点【令和元年度】では約33%)

整備計画の主な整備内容

【事業進捗図】



【主な事業実施状況】

整備項目	事業全体	整備済み	残事業
堤防整備	4.0km	0.8km	3.2km
高潮堤整備	0.3km	0.2km	0.1km
堤防強化※1	11.8km	8.0km	3.8km
河川防災ステーション	1箇所	1箇所	0箇所
河道掘削	1,763千m ³	1,593千m ³	170千m ³
橋梁改築	3橋	1橋	2橋
遊水地※2	2箇所	—	2箇所

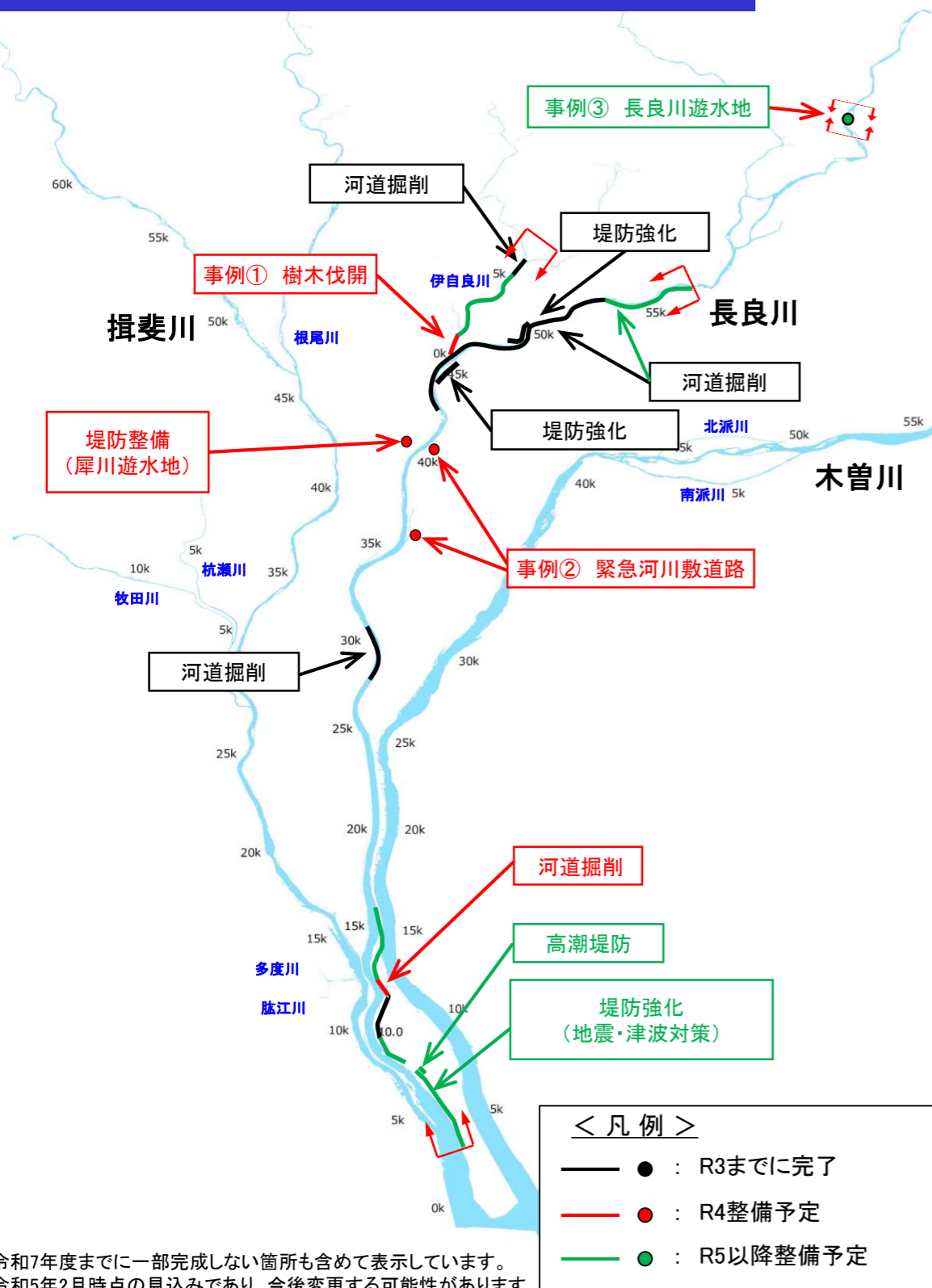
令和5年3月末予定

※1 堤防強化には浸透対策、護岸整備を含む

※2 遊水地の詳細については、関係機関等と十分な調整・連携のもと決定していく。

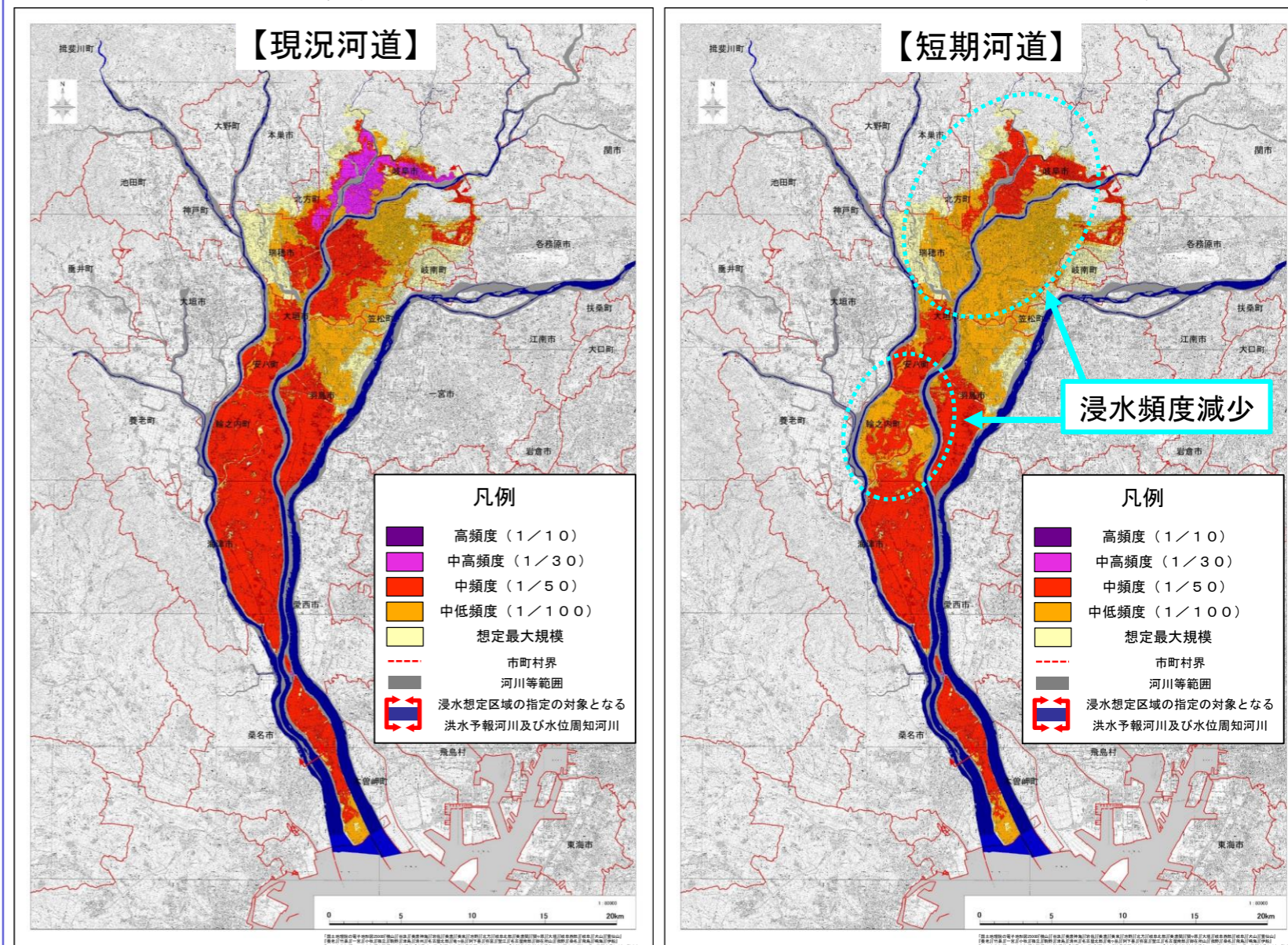
- 平成16年10月洪水を安全に流下させるため、水害リスク情報を踏まえ、流域全体の治水安全度の早期向上を念頭に、長良川遊水地の整備や堤防整備、下流部での河道掘削等を実施しています。

令和2年度～令和7年度の主な整備位置図



令和2年度～令和7年度の整備効果（治水）

木曾川水系 長良川の氾濫を想定した水害リスクマップ(令和4年9月公表)

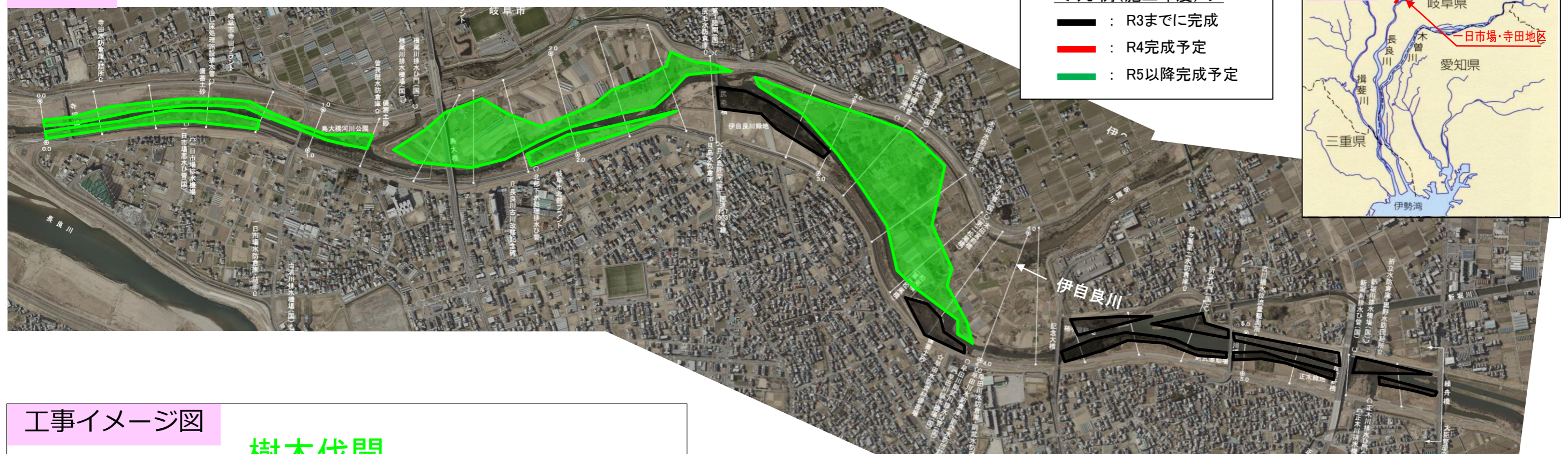


1. 説明文
 - (1)この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、現況(令和2年度末)、短期(令和7年度末)の長良川、伊自良川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率がそれぞれ1/10(10%)、1/30(3%)、1/50(2%)、1/100(1%)の降雨に伴う洪水により長良川、伊自良川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出し、年超過確率ごとの浸水範囲(浸水深0cm以上)を示したものです。
 - (2)このシミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この浸水が想定される範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合は、年超過確率及び浸水頻度が異なる場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の(平成12年9月型、昭和34年9月型)を用いているなどの理由から、河川整備計画の策定又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。
 - (3)想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき令和2年4月に指定・公表したものを表示しているため、前提としている降雨や河道条件等が異なります。
 2. 基本事項等
 - (1)公表年月日 令和4年9月30日
 - (2)作成主体及び対象となる河川 国土交通省中部地方整備局・木曾川上流河川事務所、木曾川下流河川事務所、木曾川水系長良川、伊自良川
 - (3)実施区間 木曾川上流河川事務所、木曾川下流河川事務所・長良川 左岸：岐阜県岐阜市日野北4丁目2番2地先から揖斐川合流点まで・右岸：岐阜県岐阜市大字長良古津宇小島山919番47地先から揖斐川合流点まで・伊自良川 左岸：岐阜県岐阜市大字正木松ノ木671番の1地先から長良川合流点まで・右岸：岐阜県岐阜市折立字柳添447番地先から長良川合流点まで
 - (4)算出の前提となる降雨 年超過確率1/10(長良川流域の12時間の総雨量172mm)(伊自良川流域の6時間の総雨量134mm)、年超過確率1/30(長良川流域の12時間の総雨量205mm)(伊自良川流域の6時間の総雨量182mm)、年超過確率1/50(長良川流域の12時間の総雨量221mm)(伊自良川流域の6時間の総雨量205mm)、年超過確率1/100(長良川流域の12時間の総雨量243mm)(伊自良川流域の6時間の総雨量240mm)
 - (5)河道条件 現況(令和2年度末)、短期(令和7年度末) ※国管理区間の整備のみ考慮しており、今後の事業進捗等によって変更となる場合があります。
 - (6)関係市町村 岐阜市、大垣市、羽島市、各務原市、瑞穂市、本巣市、海津市、養老町、岐阜町、笠松町、輪之内町、安八町、北方町、愛西市、桑名市
 - (7)その他計算条件等
 - ①氾濫計算は、対象区間をおよそ25m間隔の格子(計算メッシュという)に分割して、これを1単位として水深を計算しているため、微地形による影響が反映できない場合があります。
 - ②洪水浸水想定区域は、氾濫計算結果から計算メッシュごとの想定浸水水位を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続盛土工造物(道路や鉄道の盛土など)等を考慮して図示しています。
- ※この水害リスクマップは流域治水の推進を目的としたものであり、水防法に基づく図ではありません。

事例① 樹木伐開 (伊自良川) 【一日市場・寺田地区】

- 令和4年度より、伊自良川中下流部の樹木伐開を実施します。
- 伊自良川の樹木伐開は、令和7年度までに完了させることを目標としています。

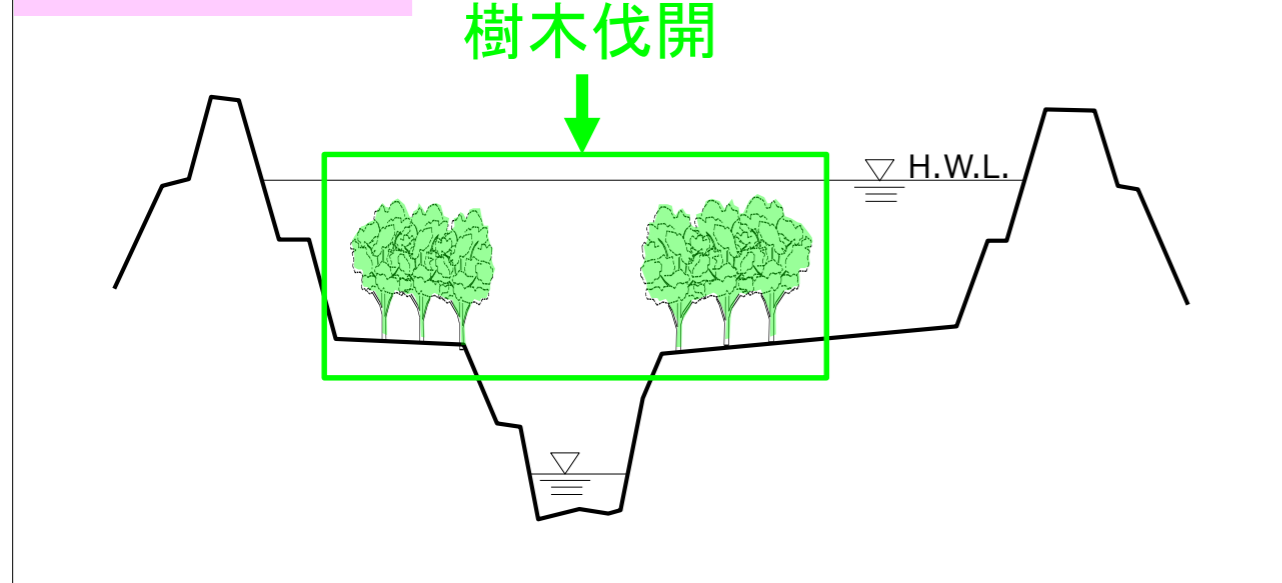
平面図



< 凡例(施工年度) >
 ■ : R3までに完成
 ■ : R4完成予定
 ■ : R5以降完成予定



工事イメージ図



工種	事業量	進捗率
水位低下 (樹木伐開)	23.9 ha	17%

事例② 緊急河川敷道路【本郷・日置江地区】

- 大規模地震発生時には河川管理施設や流域市街地の被災が想定されることから、資機材・支援物資等の緊急的な輸送路として、緊急河川敷道路や防災船着場等を整備しています。
- 本郷・日置江地区の渡河施設を整備することで、羽島市桑原町～岐阜市元浜町までの約25.5km区間の通行が可能となります。



< 凡例 >

- : 緊急河川敷道路
- 船 : 防災船着場
- : 舟運ルート

工種	事業量	進捗率
緊急河川敷道路	25.5km	完了予定
防災船着場	1箇所	完了

< 凡例(施工年度) >

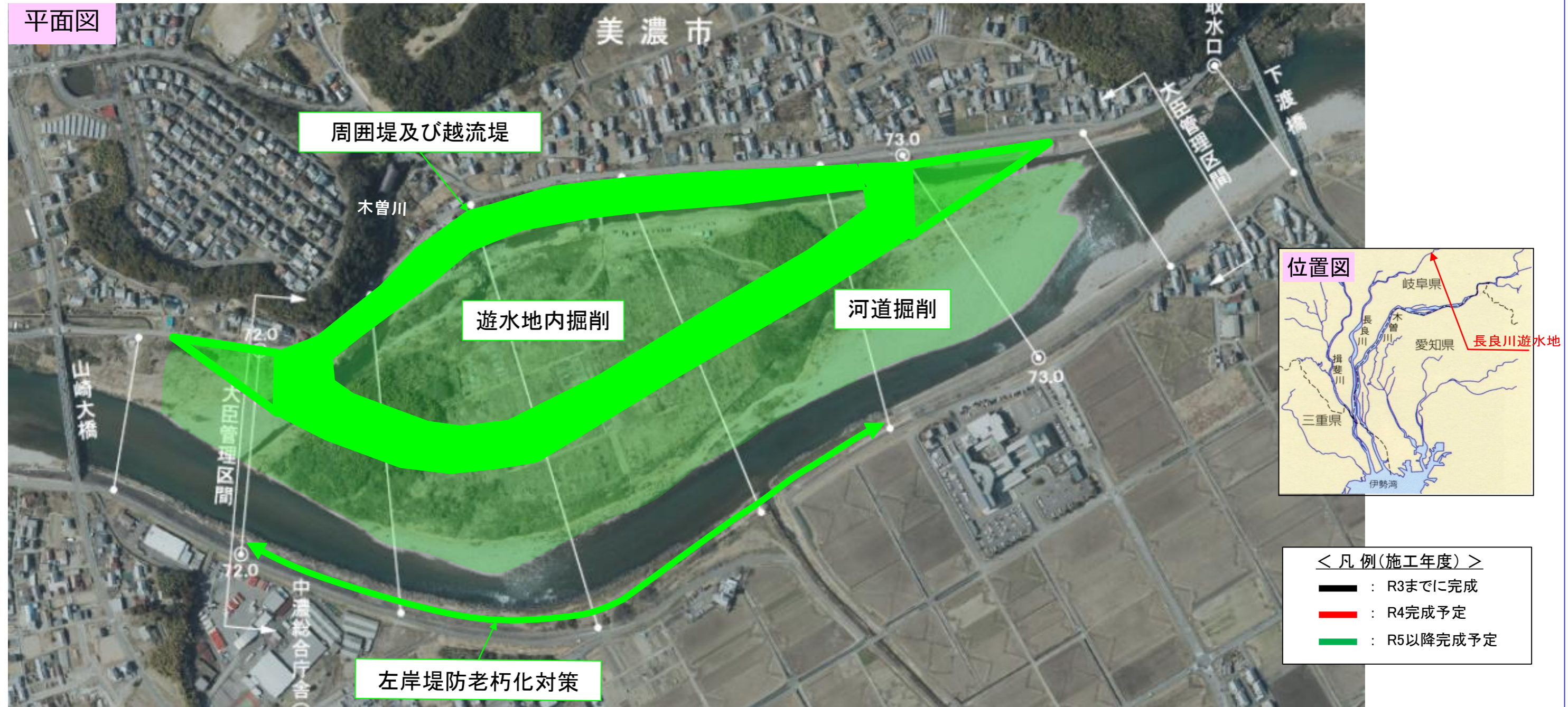
- : R3までに完成
- : R4完成予定
- : R5以降完成予定



事例③ 長良川遊水地 みの【美濃市地区】

- 令和3年4月1日より、美濃市地区における遊水地整備に必要な区間として、長良川72.0kp～73.3kpを国管理区間に指定しました。
- 令和4年度は、遊水地事業の必要性や効果等についてご理解いただくため、丁寧な地元説明を実施しています。

平面図



※令和5年2月時点の想定範囲を図示したもので、今後変更の可能性があります

事例③ 長良川遊水地

- 長良川遊水地の整備にあたっては、事業箇所及び周辺を含めて環境調査を継続し、重要種の分布を確認するとともに、生態系に配慮して生息環境の保全に努めていくこととしています。その具体的な手法を検討することを目的として、令和3年12月に「長良川遊水地河川環境調査検討会」を設立しました。
- 検討会では、具体的な調査範囲と保全対象種の選定、保全対象種の移植先とその実施時期について了承を得ました。

長良川遊水地河川環境調査検討会

《委員》

西條 好迪 (一財)自然学総合研究所理事長
藤田 裕一郎 岐阜大学名誉教授
森 誠一 岐阜協立大学教授

《オブザーバー》

岐阜県県土整備部河川課長
関市基盤整備部土木課長
美濃市建設部土木課長

＜第1回検討会＞

日時:令和3年12月24日(金)
10時～11時

場所:木曽川上流河川事務所

内容:本検討会の背景・目的

・横越地区、池尻地区の環境特性

・長良川遊水地事業における河川環境

保全の基本的な考え方

＜第2回検討会＞

日時:令和4年9月29日(木)
14時～15時

場所:じゅうろくプラザ

内容:横越地区、池尻地区の生態的な機能と
影響範囲について

・保全対象種の選定について

・保全対象種の移植先について

・移植対象種の事前調査について



第2回検討会の様子

＜第1回検討会での主な意見＞

- 整備前の環境について、現況調査はなるべく工事にかかる直前に実施しておき、工事終了後の調査は、従来から行われている河川水辺の国勢調査(河川版)に基づいて実施すれば良い。
- 対象種について事前に整理しておくことが必要。対象種によって、保全方法等の対応は異なってくると思われる。
- 水生生物の移動性を考えて範囲が定められて、しっかりとした調査がなされており、それらの結果から、それぞれの場所が生態系の中で果たしている機能にも着目しておくべきである。
- 整備による洪水時の流れ方や土砂の移動状況の変化も見据えながら、環境機能保全方策の内容を詰めていきたい。

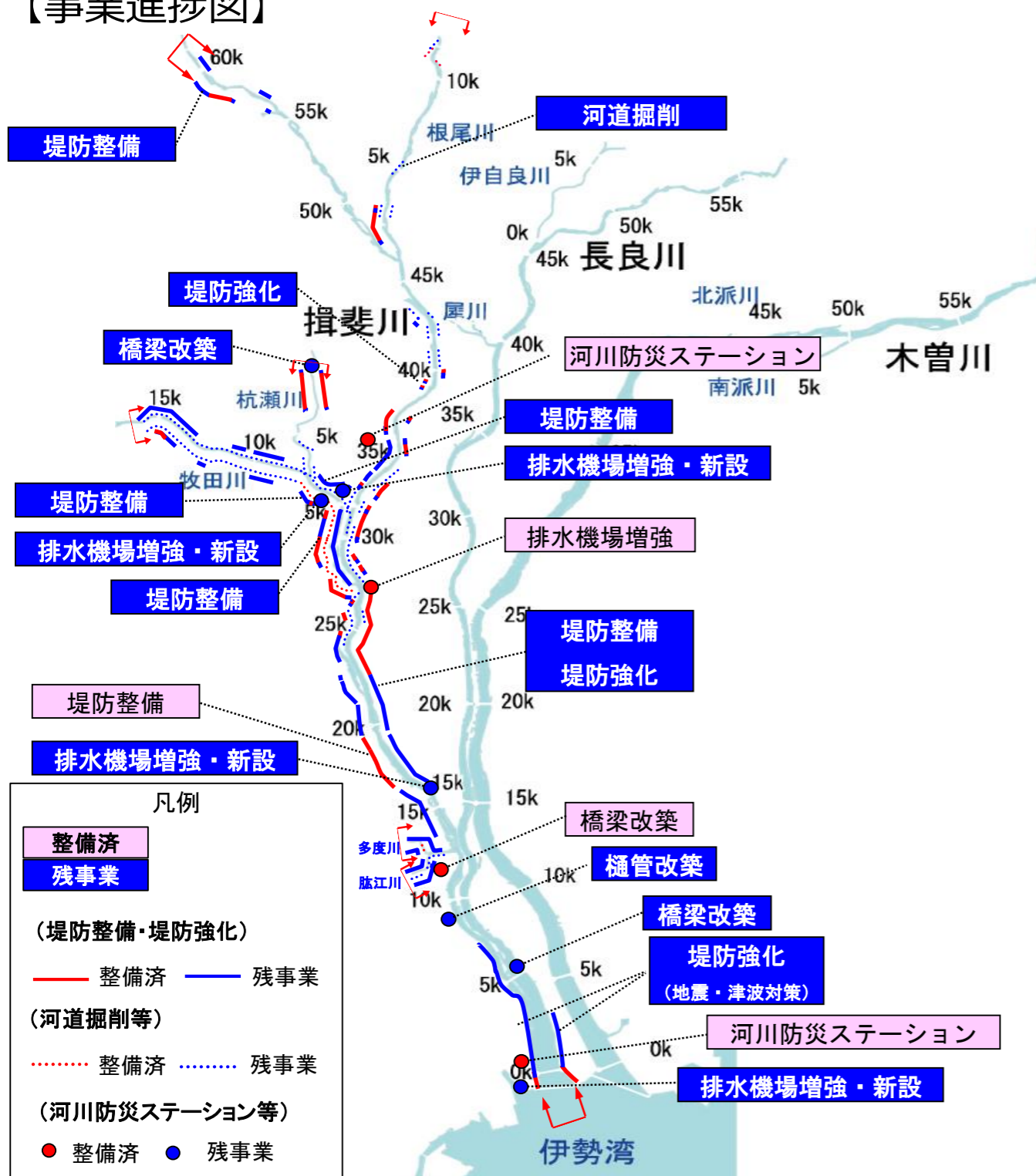
＜第2回検討会での主な意見＞

- 美濃市(横越)地区は、オオサンショウウオやネコギギの生息にとって重要度が高いのではないかと考えられるため、長良川中流域の広範囲で行われた過去の現地調査について、確認種の分布の粗密を把握できているかどうかを知りたい。
→ 調査時に個体数も含めて記録しているため、事務局で資料を整理し共有する。なお、共有は貴重種保護の観点より各委員に対してのみ行うこととしたい。
- 遊水地事業が動植物の保全に配慮して行われることは、中部圏においては画期的と認識し、期待している。他方、移植することに力点が置かれすぎている。事業による環境負荷を前提としつつも同時並行で環境創出の検討も必要である。
→ 治水と環境の両立は大きな検討課題と認識している。今後遊水地の詳細設計を行う中でしっかり検討していきたい。

- 河川整備計画に計上されている直轄河川改修事業の進捗率は、事業費ベースで約60%です。
(前回再評価時点【令和元年度】では約51%)

整備計画の主な整備内容

【事業進捗図】



【主な事業実施状況】

整備項目	事業全体	整備済み	残事業
堤防整備	67.6km	43.9km	23.7km
高潮堤整備	1.8km	1.7km	0.1km
堤防強化※1	137.5km	34.6km	102.9km
河川防災ステーション	2箇所	2箇所	0箇所
排水機場増強・新設	6箇所	2箇所	4箇所
河道掘削	1,887千m ³	1,294千m ³	593千m ³
橋梁改築	2橋	1橋	1橋
危機管理型ハード対策※2	10.1km	10.1km	0.0km

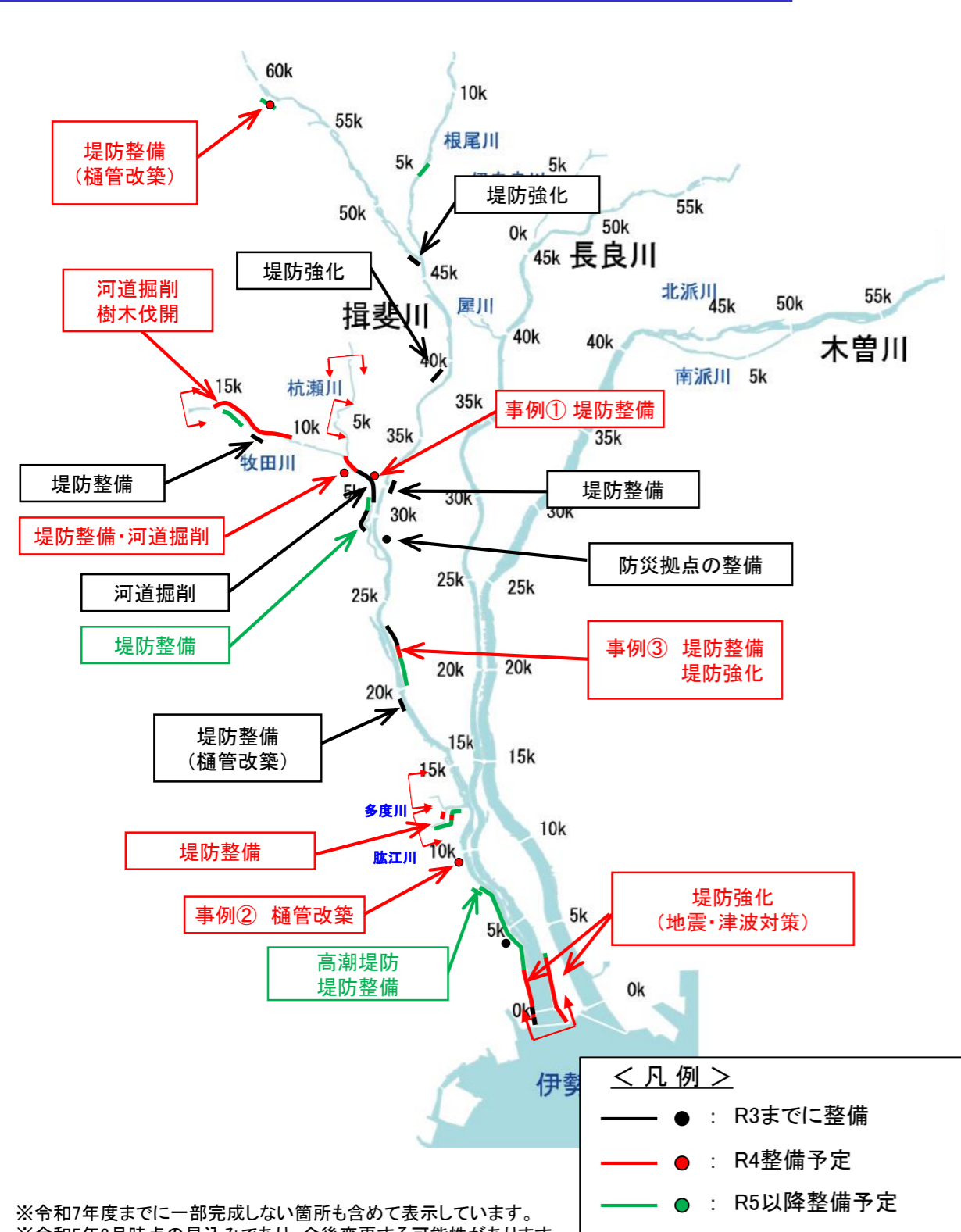
令和5年3月末予定

※1 堤防強化には浸透対策、護岸整備を含む

※2 道路天端の保護、堤防裏法尻の補強等

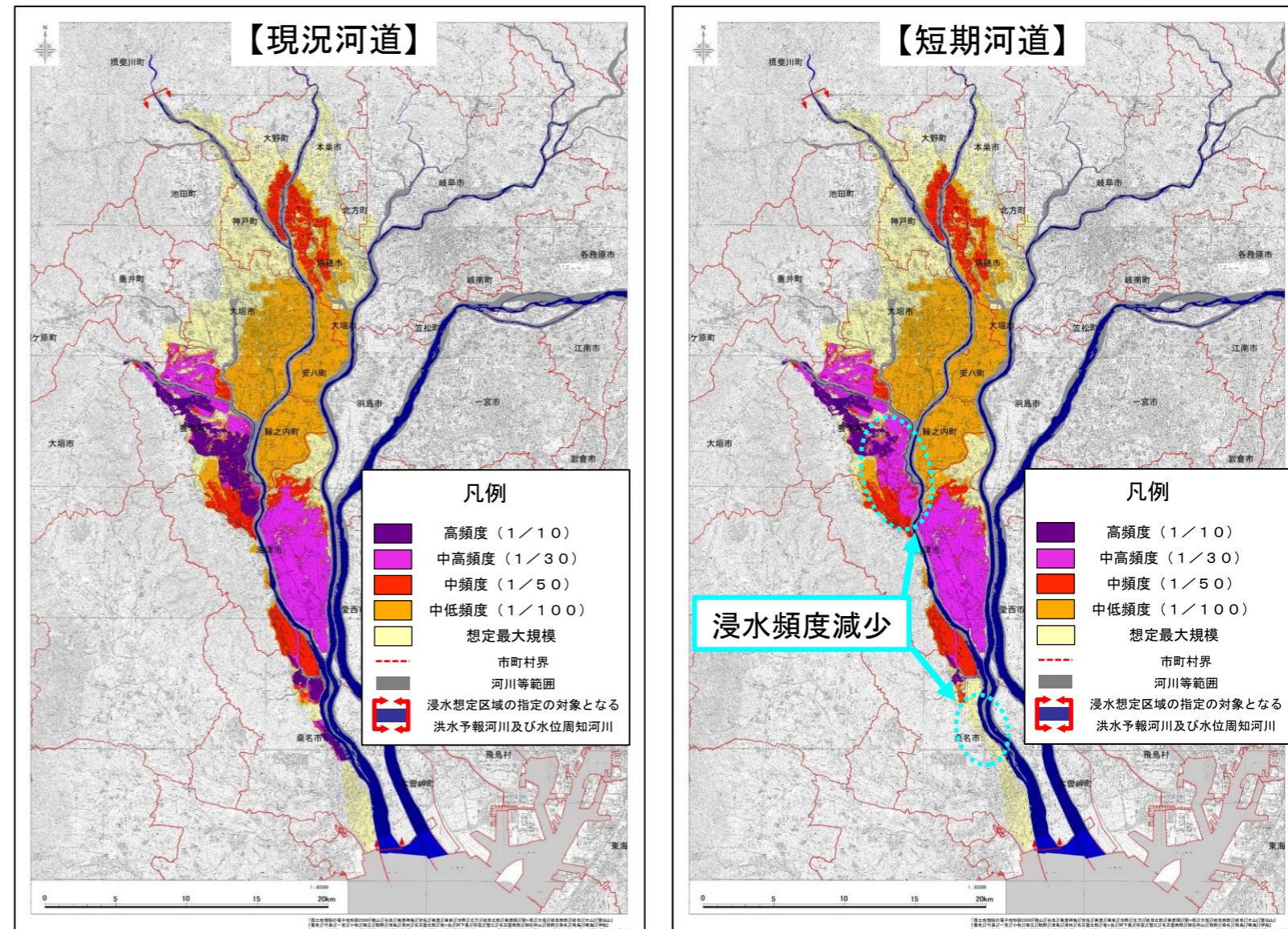
- 昭和50年8月洪水及び平成14年7月洪水を安全に流下させるため、水害リスク情報を踏まえ、流域全体の治水安全度の早期向上を念頭に、中下流部の堤防整備を実施しています。
- 河口部においては、近年発生が懸念されている大規模地震に備え、地震・津波対策を実施しています。

令和2年度～令和7年度の主な整備位置図



令和2年度～令和7年度の整備効果 (治水)

木曾川水系 揖斐川の氾濫を想定した水害リスクマップ(令和4年9月公表)

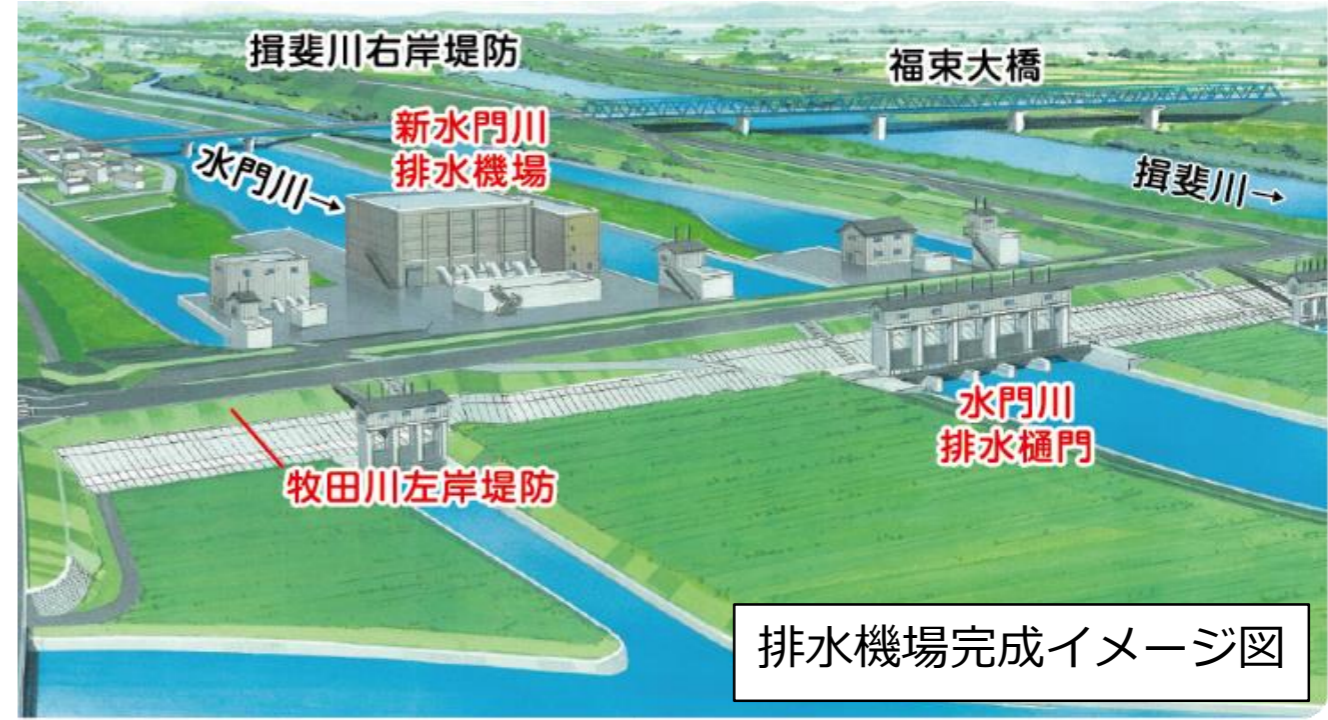


1. 説明文
 (1)この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、現況(令和2年度末)、短期(令和7年度末)の揖斐川、根尾川、牧田川、杭瀬川、多度川、鮎江川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率がそれぞれ10(10%)、1/30(3%)、1/50(2%)、1/100(1%)、の降雨に伴う洪水により揖斐川、根尾川、牧田川、杭瀬川、多度川、鮎江川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出し、年超過確率ごとの浸水範囲(浸水深0cm以上)を示したものです。
 (2)このシミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この浸水が想定される範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。年超過確率及び浸水頻度が異なる場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の(昭和34年9月型、昭和35年8月型、昭和28年9月型、モデル降雨波形)を用いているなどの理由から、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。
 (3)想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき令和2年4月に指定・公表したものを表示しているため、前提としている降雨や河道条件等が異なります。

2. 基本事項等
 (1)公表年月日 令和4年9月30日
 (2)作成主体及び対象となる河川 国土交通省中部地方整備局・木曾川上流河川事務所、木曾川下流河川事務所 木曾川水系揖斐川、根尾川、牧田川、杭瀬川、多度川、鮎江川
 (3)実施区間 木曾川上流河川事務所、木曾川下流河川事務所・揖斐川 左岸:岐阜県揖斐郡揖斐川町北方字西平1314番27の1地先から海まで 右岸:岐阜県揖斐郡揖斐川町上野字東広尾1950番2地先から海まで・根尾川 左岸:岐阜県本巣市山口字筋甲斐841番1地先から揖斐川合流点まで 右岸:岐阜県揖斐郡大野町大字福富字北野2579番1地先から揖斐川合流点まで・牧田川 左岸:岐阜県大垣市上石津町牧田字山村3974番の1の1地先から揖斐川合流点まで 右岸:岐阜県大垣市上石津町牧田字二俣3456番の1地先から揖斐川合流点まで・杭瀬川 左岸:岐阜県大垣市久瀬川町塩田橋から牧田川合流点まで 右岸:岐阜県大垣市静里町宇船越塩田橋から牧田川合流点まで・多度川 左岸:三重県桑名市多度町大字香取字蛇江2128番の1地先から揖斐川合流点まで 右岸:三重県桑名市多度町大字香取字蛇江2128番の1地先から揖斐川合流点まで・鮎江川 左岸:三重県桑名市多度町大字鮎江字川原777番の1地先から揖斐川合流点まで 右岸:三重県桑名市多度町大字鮎江字川原777番の1地先から揖斐川合流点まで
 (4)算出の前提となる降雨 年超過確率1/10(揖斐川流域の2日間の総雨量268mm)(多度川流域の1日間の総雨量229mm)(鮎江川流域の1日間の総雨量229mm)、年超過確率1/30(揖斐川流域の2日間の総雨量329mm)(多度川流域の1日間の総雨量294mm)(鮎江川流域の1日間の総雨量381mm)、年超過確率1/50(揖斐川流域の2日間の総雨量357mm)(多度川流域の1日間の総雨量337mm)(鮎江川流域の1日間の総雨量337mm)、年超過確率1/100(揖斐川流域の2日間の総雨量395mm)(多度川流域の1日間の総雨量381mm)(鮎江川流域の1日間の総雨量381mm)
 (5)河道条件 現況(令和2年度末)、短期(令和7年度末)※国管理区間の整備のみ考慮しており、今後の事業進捗等によって変更となる場合があります。
 (6)関係市町村 岐阜市、大垣市、羽島市、瑞穂市、本巣市、海津市、養老町、垂井町、神戸町、輪之内町、安八町、揖斐川町、大野町、池田町、北方町、桑名市
 (7)その他計算条件等
 ①氾濫計算は、対象区間をおよそ25m間隔の格子(計算メッシュ)に分割して、これを1単位として水深を計算しているため、微地形による影響が反映できない場合があります。
 ②洪水浸水想定区域は、氾濫計算結果から計算メッシュごとの想定浸水水位を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続盛土構造物(道路や鉄道の盛土など)等を考慮して図化しています。
 ※この水害リスクマップは流域治水の推進を目的としたものであり、水防法に基づく図ではありません。

事例① 堤防整備・木曽川上流特定構造物改築事業（新水門川排水機場） よこぞね【横曽根地区】

- 令和3年度より、老朽化が進行している新・旧水門川排水機場の統合改築及び牧田川左岸堤防の改修に着手し、排水機場整備等に必要な堤外民有地の取得が完了しました。
- 令和4年度より、水門川下流の切り回し水路及び排水樋門の基盤整備に着手します。

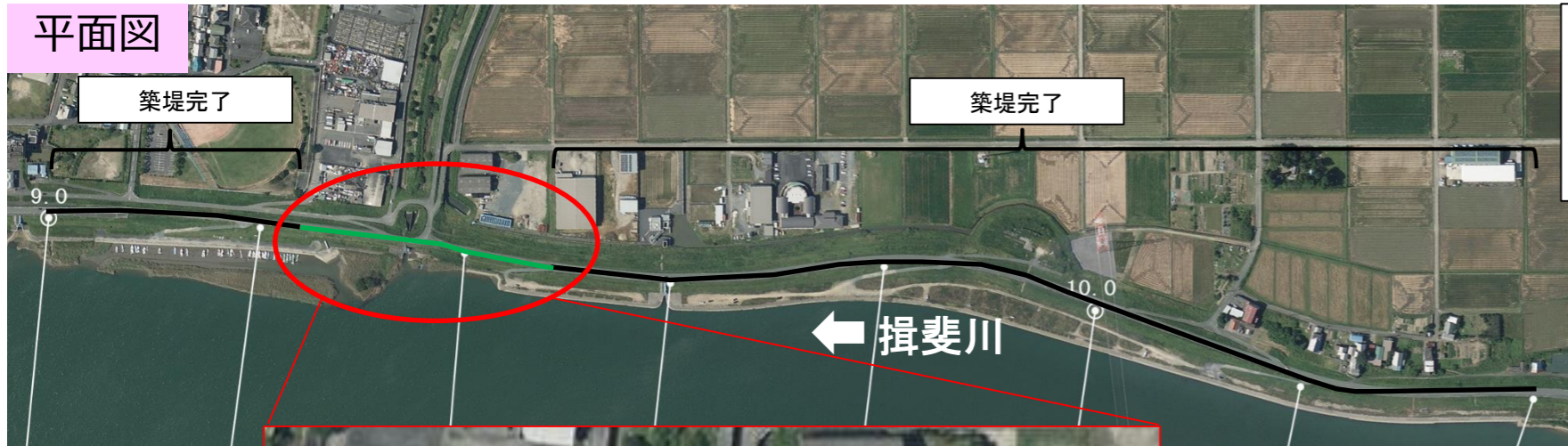


工種	事業量	進捗率
堤外民有地取得	1式	完了
仮設工(水門川切り回し)	1式	0%
基盤整備	1式	0%
樋門・樋管	1式	0%
排水機場	1式	0%

事例② 樋管改築【^{ふかや}深谷地区】

- 設置後50年以上が経過し、老朽化が進行している御砂樋管の改築工事及び揖斐川右岸の堤防整備を行います。
- 令和4年度は仮設工を実施しています。

平面図



< 凡例(施工年度) >

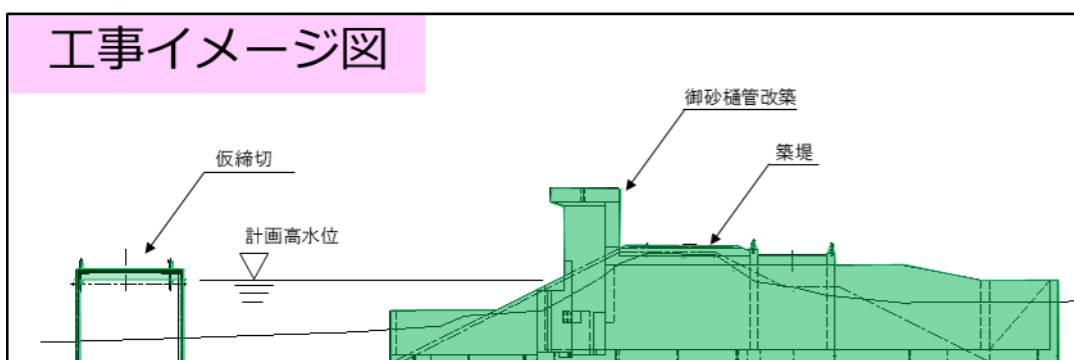
- : R3までに完成
- : R4完成予定
- : R5以降完成予定

位置図



工種	事業量	進捗率
樋管改築	1式	0%
築堤	0.24km	0%
仮設工	1式	0%(施工中)

工事イメージ図



着事前



現在の状況

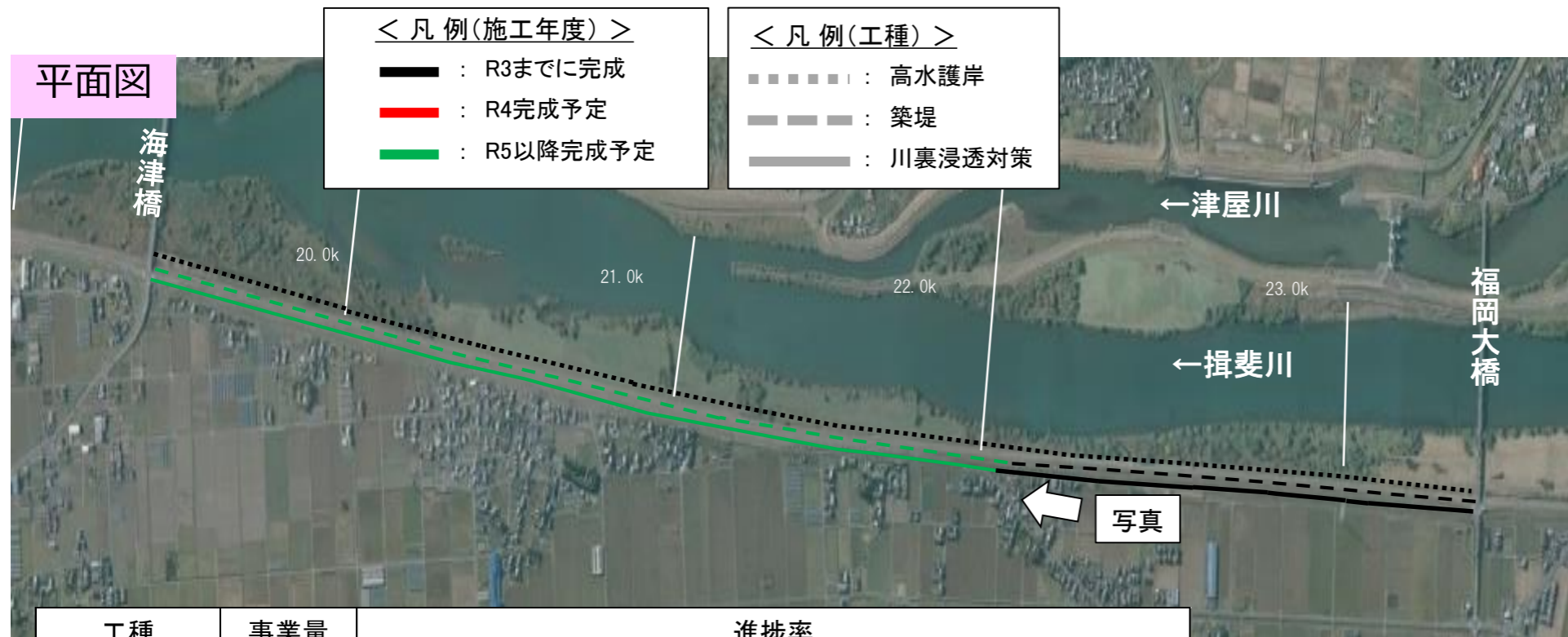


完成イメージ

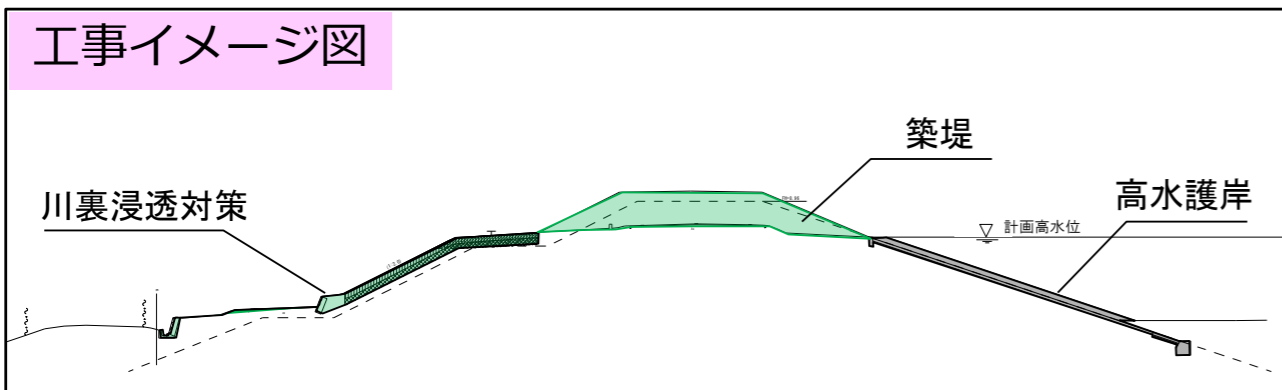


事例③ 堤防整備、堤防強化【ほんなみしんでん本阿弥新田地区】

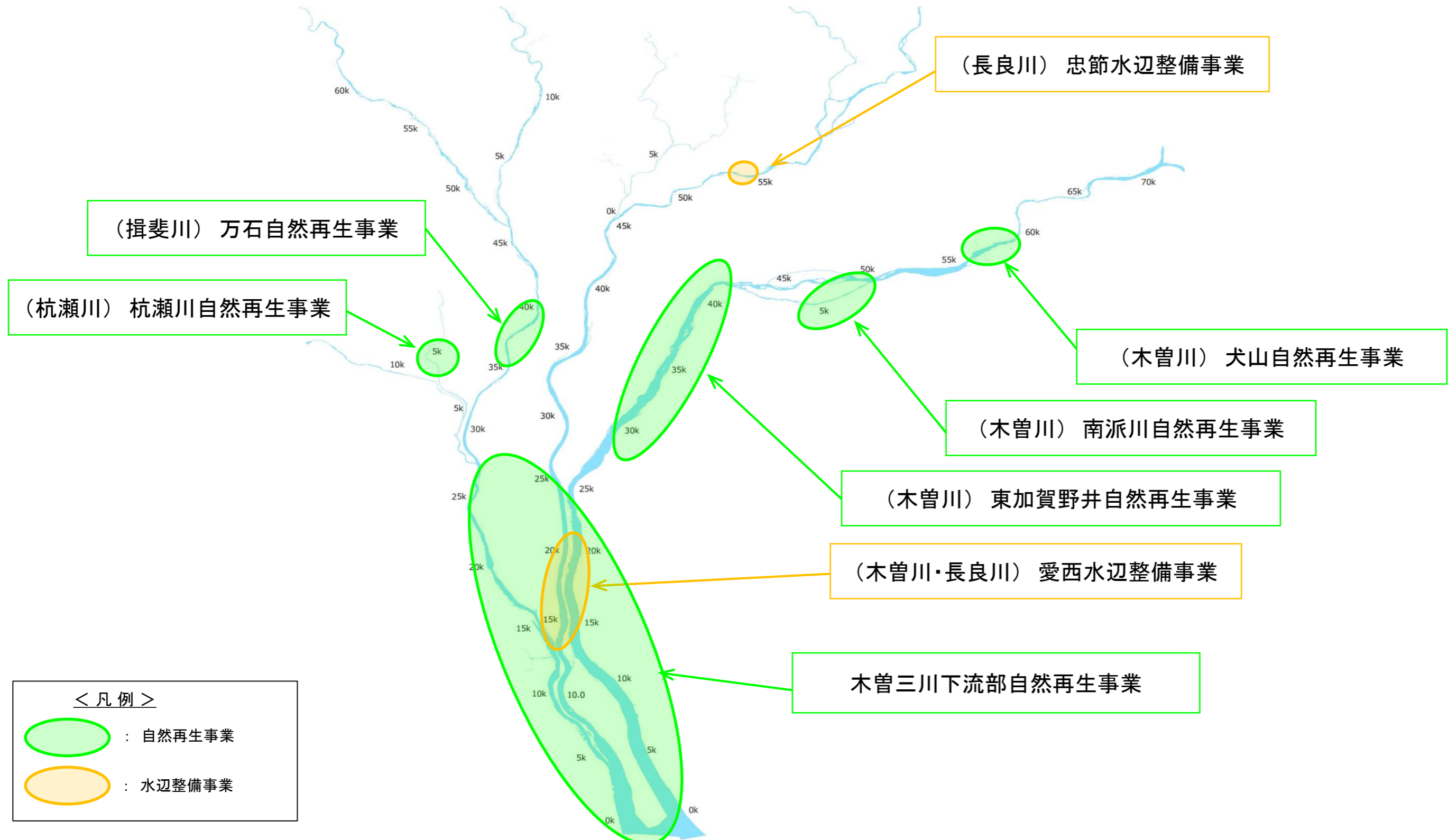
- 平成27年度より本阿弥新田地区の堤防整備、堤防強化工事を行っています。
- 令和3年度までに高水護岸の整備が完了しました。令和4年度以降は堤防の嵩上げ、川裏浸透対策を実施します。



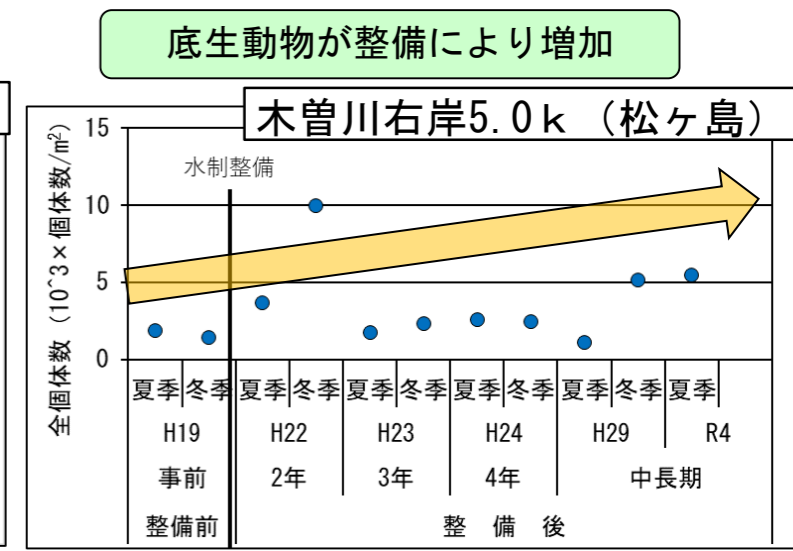
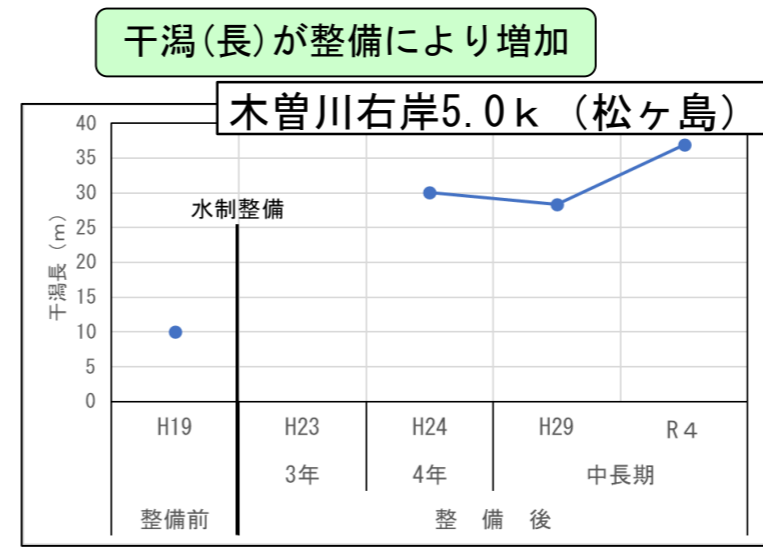
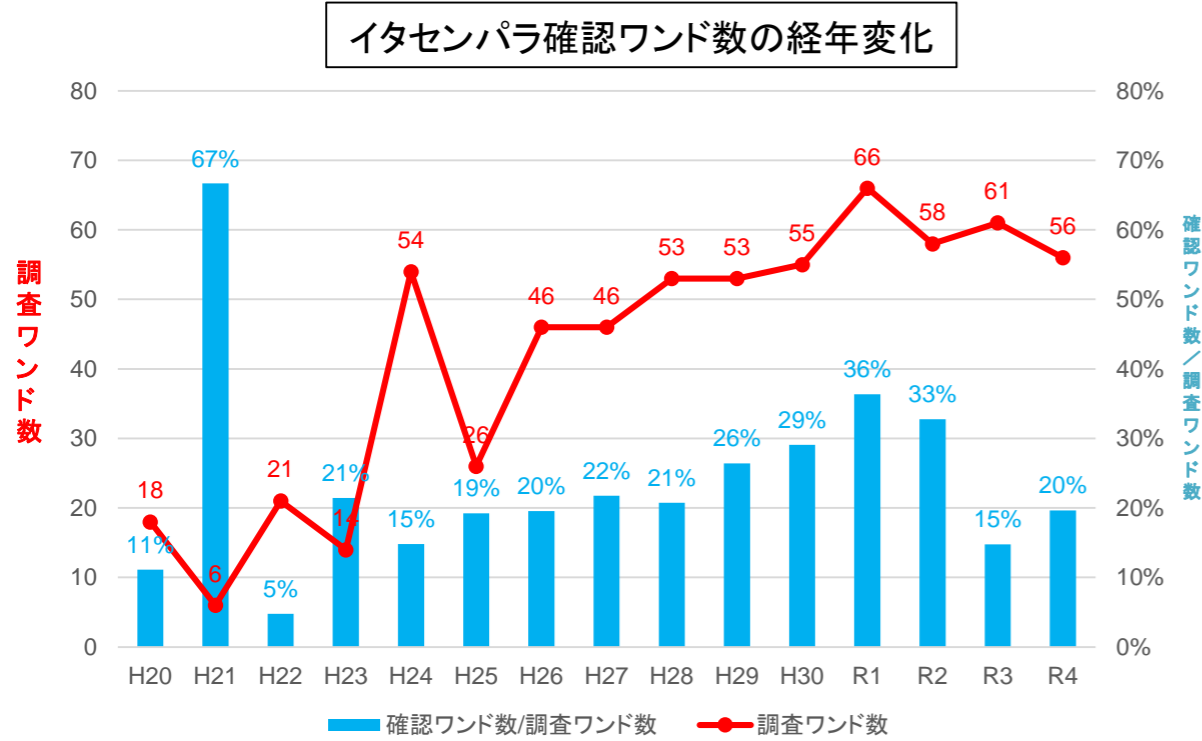
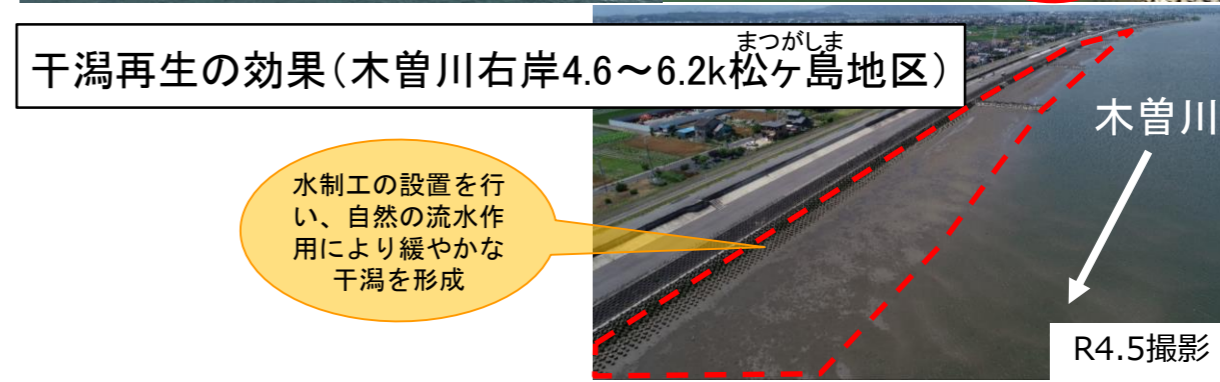
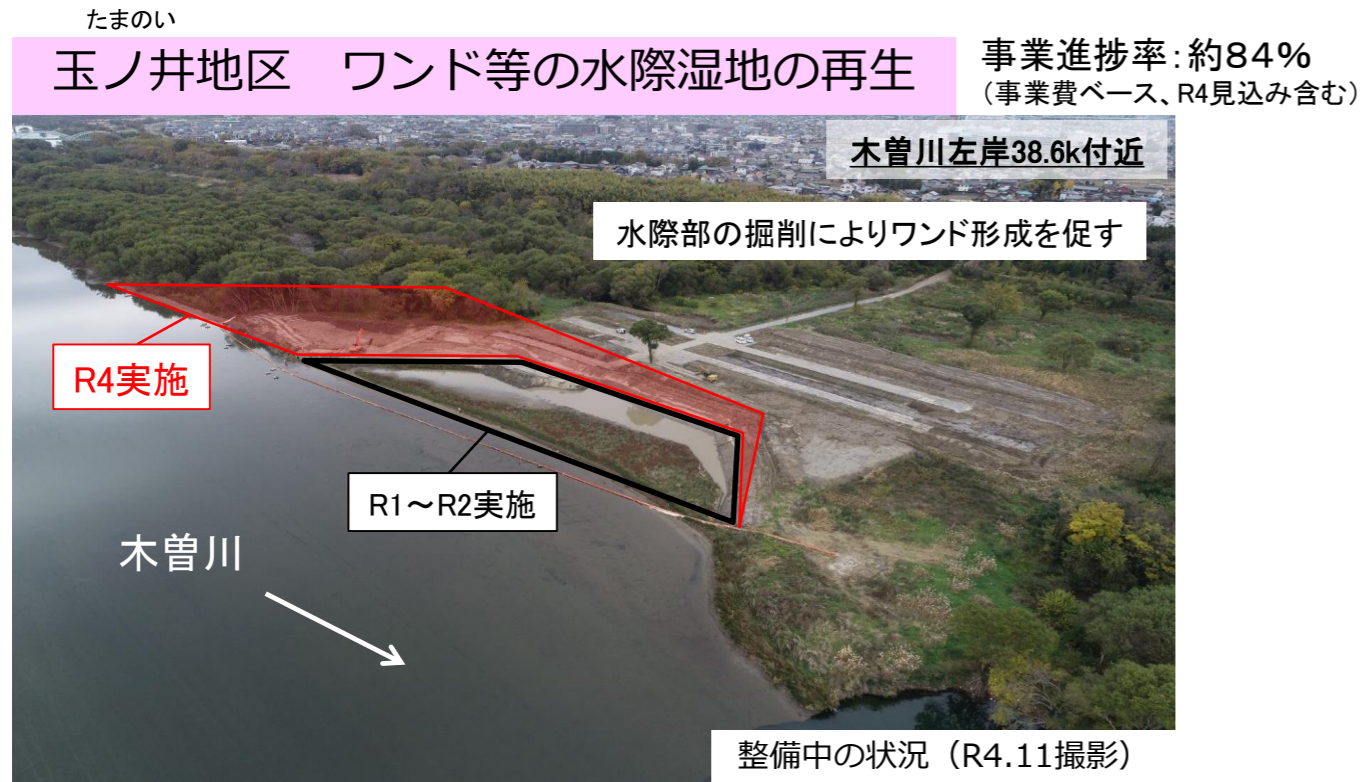
工種	事業量	進捗率
高水護岸	3.96km	完了
築堤	3.96km	35%
川裏浸透対策	3.96km	29%



- 木曽三川の良好な自然環境の保全を図りつつ、より良い環境を創出するために、ワンド等水際湿地や礫河原等の自然再生事業を実施しています。
- また、木曽三川の歴史、自然、文化等を活かし、水辺の利用を促進するために水辺整備事業を実施しています。
- 環境整備事業の進捗率は、事業費ベースで約78%です。（前回再評価時点【令和3年度】では約75%）



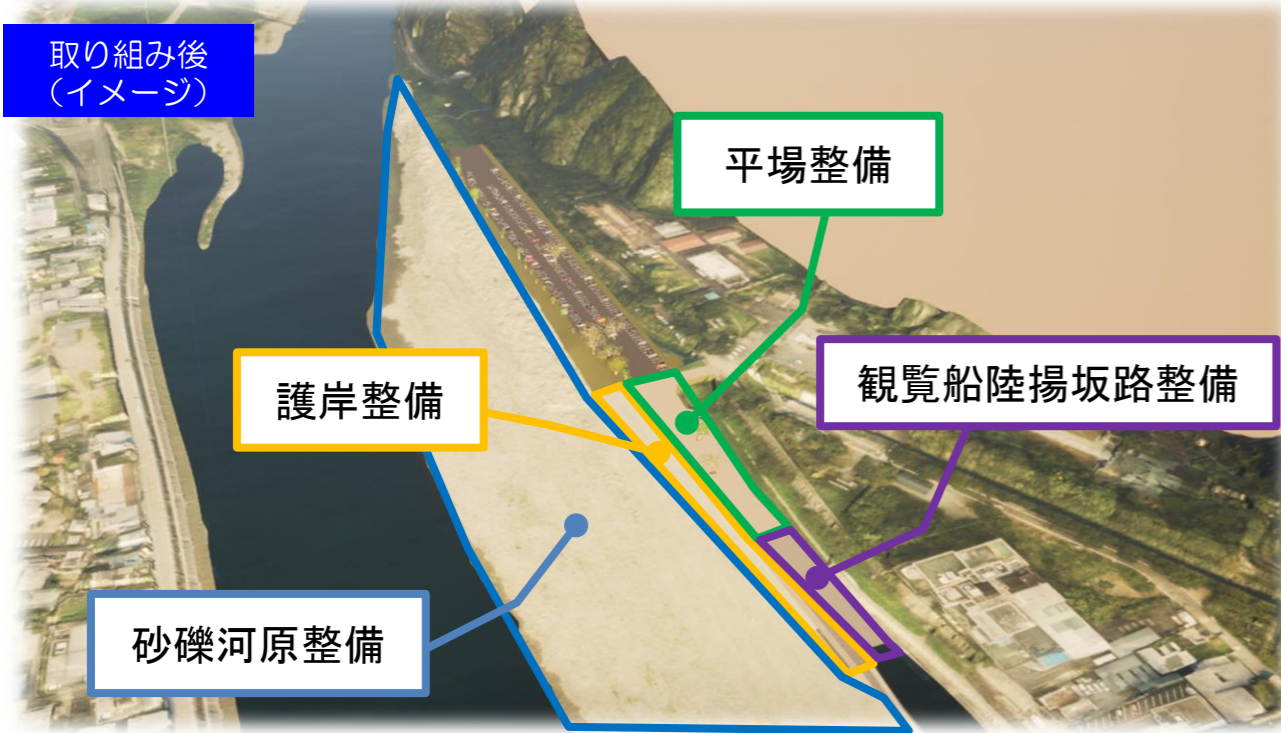
- 木曽川中流部では、樹林化や底泥の堆積により劣化が進んだワンド環境の改善に向け、令和4年度は玉ノ井地区において、水際部の掘削を実施しています。
- 木曽三川下流部では、豊かで多様な水際環境を再生するため、水制工及び養浜による干潟の再生等を実施しています。



- ぎふ長良川鶉飼かわまちづくりでは、令和4年度より、砂礫河原広場整備に着手しました。
- 愛西市かわまちづくりでは、令和3年度に引き続き、ワンド整備を実施しています。

①ぎふ長良川鶉飼かわまちづくり

事業進捗率:約2%
(事業費ベース、R4見込み含む)



※この図はイメージであり、今後変更される場合があります。

現況 (砂礫河原広場を整備中)



令和4年12月撮影

②愛西市かわまちづくり

事業進捗率:約79%
(事業費ベース、R4見込み含む)

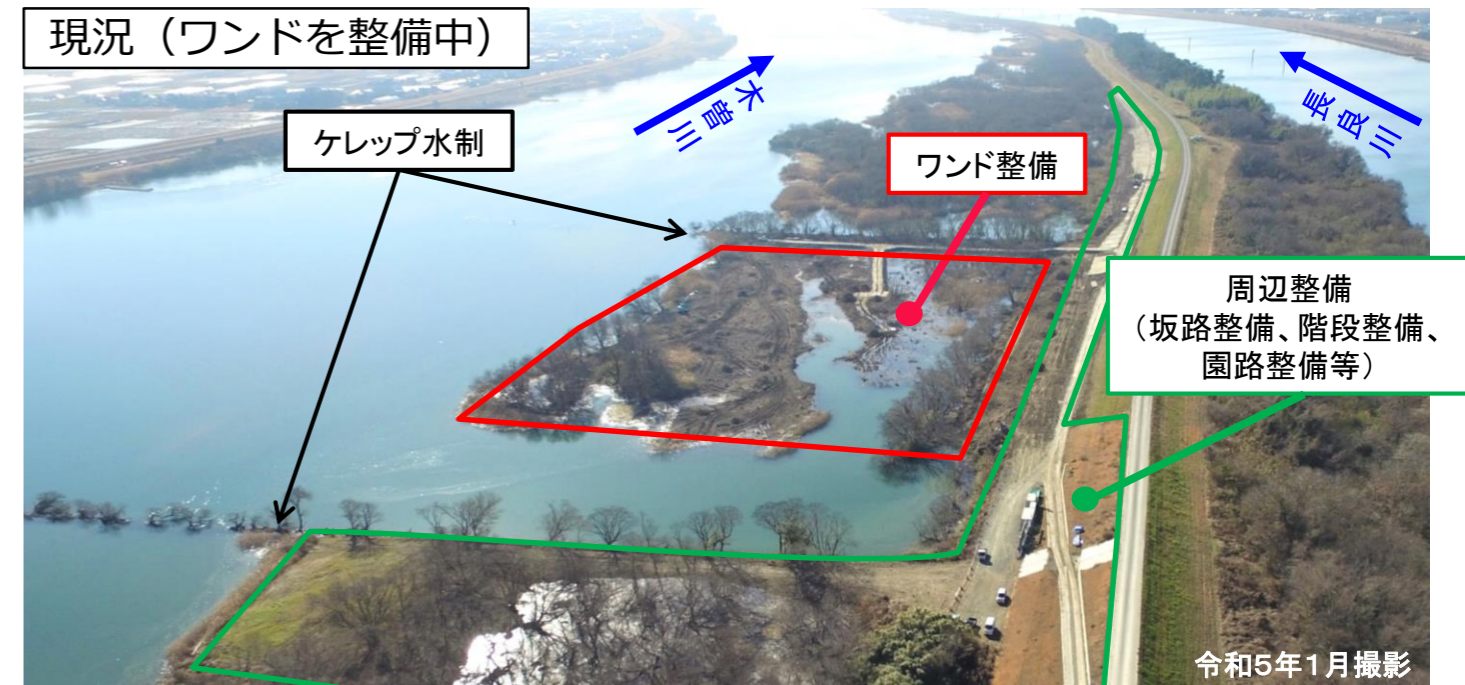
取り組み後
(イメージ)

ケレップ水制間の湿地再生
観光船の運行ルートの特長



※この図はイメージであり、今後変更される場合があります。

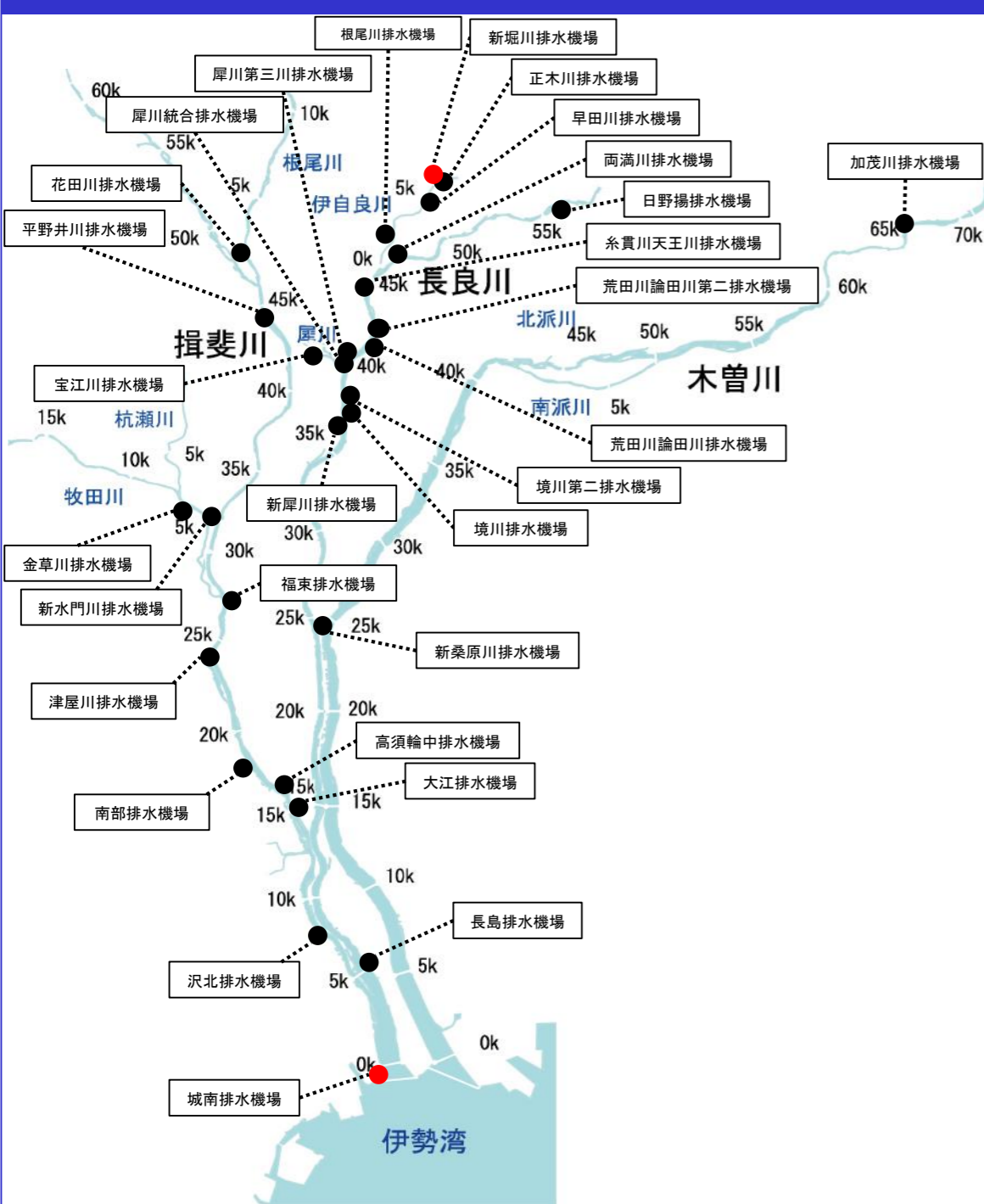
現況 (ワンドを整備中)



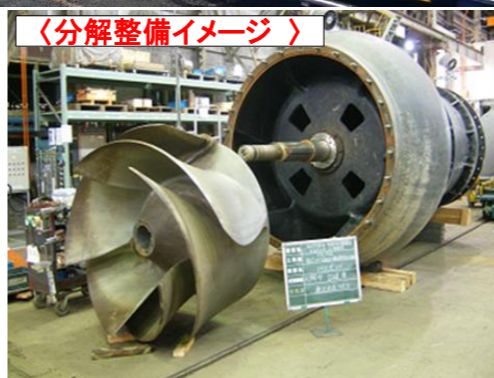
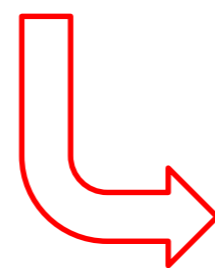
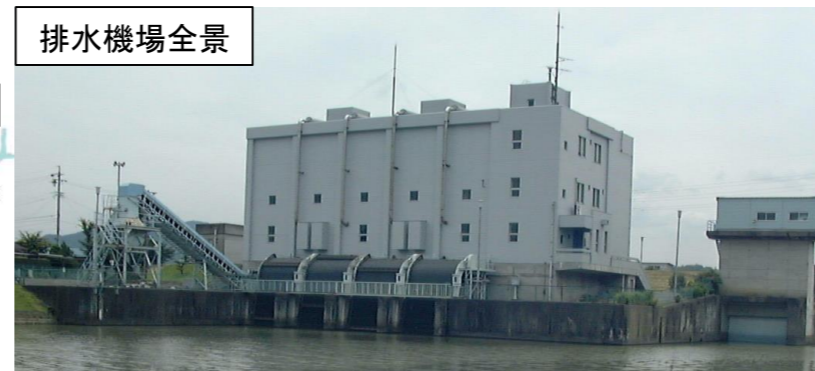
令和5年1月撮影

- 木曽川水系では、低平地における排水強化を図るため、これまでに28箇所の排水機場、1箇所の揚排水機場を整備しています。しかし、その半数以上が築40年以上経過するなど老朽化が進んでおり、排水機場の機能維持・補強が必要です。
- 施設の機能を確保するために、計画的な維持管理を行い、施設の信頼性の維持と長寿命化を図っています。
- 令和4年度は、新堀川排水機場及び城南排水機場の排水ポンプ修繕を実施しています。

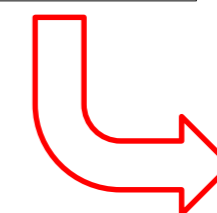
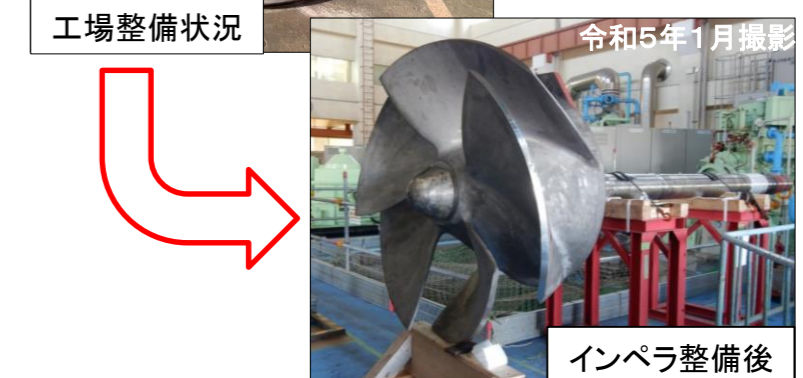
事例 排水機場・揚排水機場 ポンプ修繕【新堀川排水機場・城南排水機場】



<新堀川排水機場>

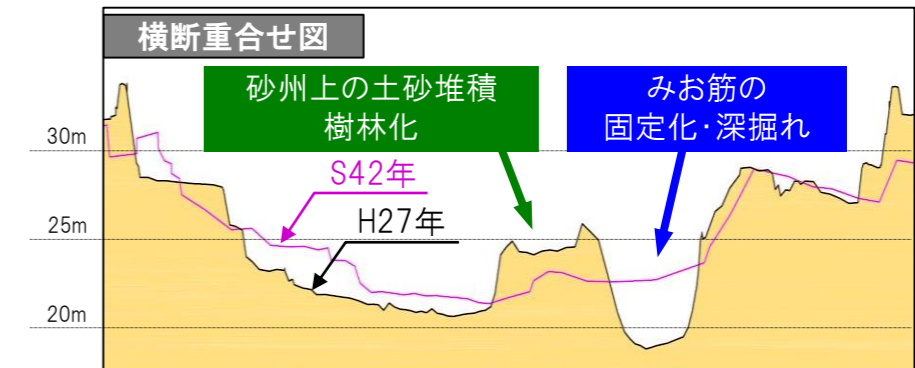
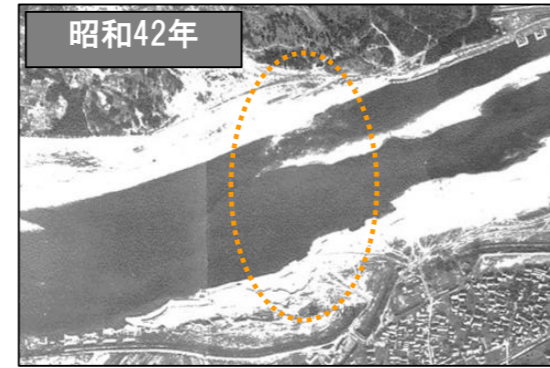


<城南排水機場>

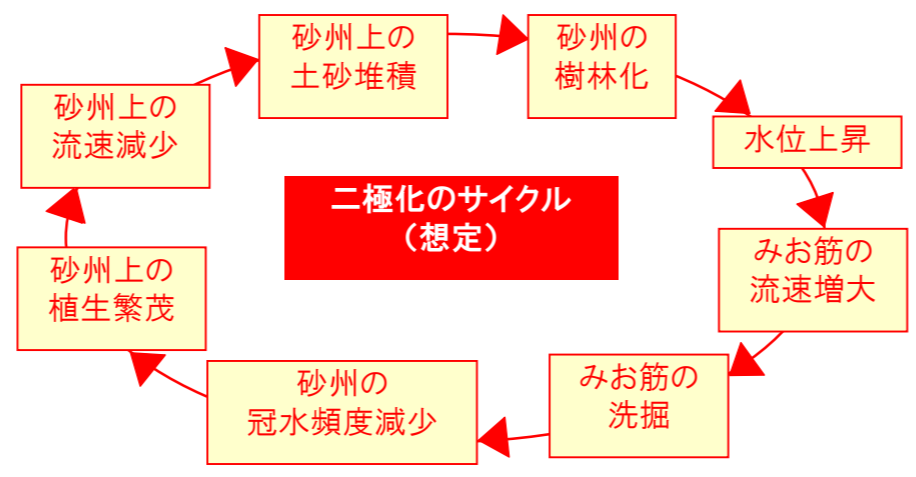
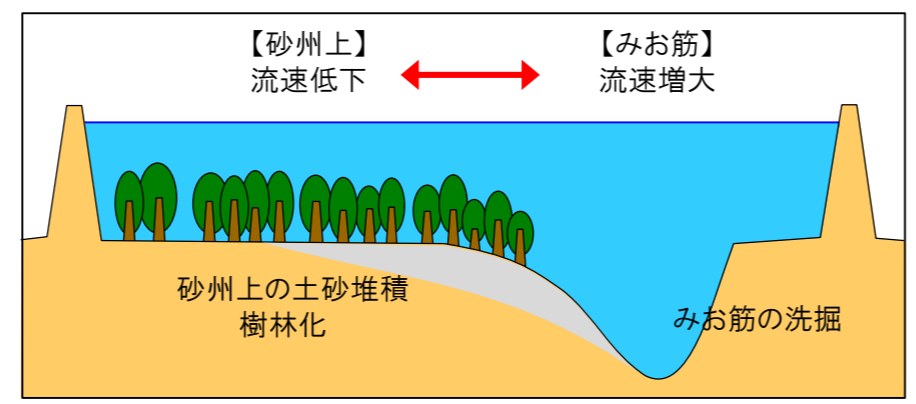


今後の課題

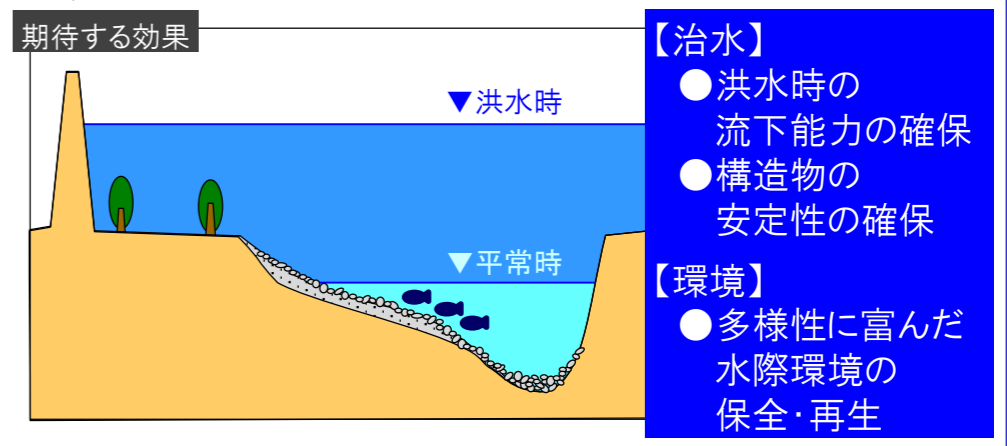
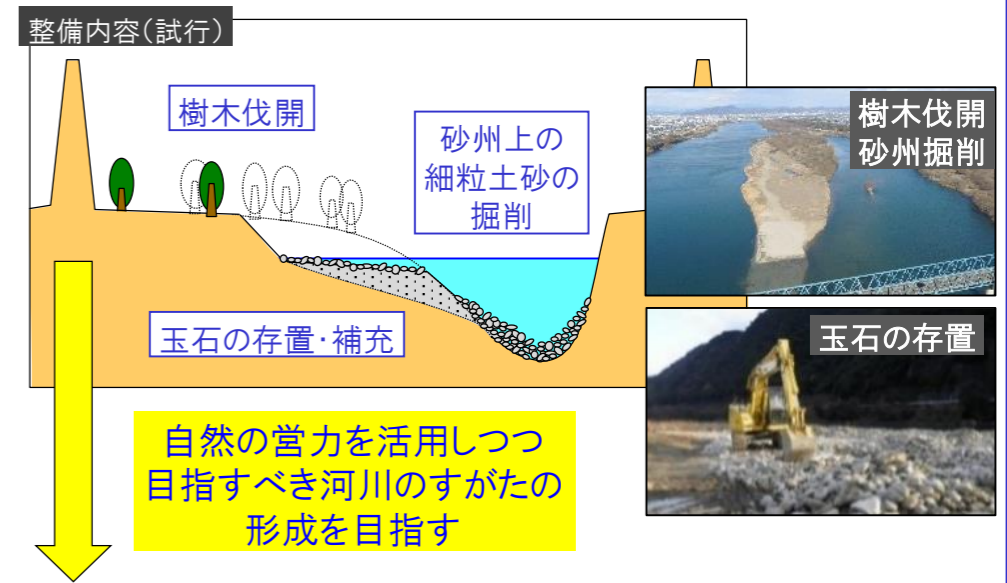
- 長年にわたる堤防整備や河道掘削などにより、治水安全度は向上している一方で、砂州と河床の比高差が過度に大きくなる「河道の二極化」が顕在化しています。
- 河道の二極化により、樹林化による流下阻害、過度なみお筋の低下による構造物の不安定化、水際環境の悪化が懸念されます。
- 木曽川水系では、自然の営力を活用することを念頭に、二極化対策を試行していくこととしています。



二極化進行メカニズム(想定)



二極化対策の試行



○気候変動の影響による降雨量の増大を踏まえ、木曾川水系においても河川整備基本方針及び河川整備計画の改定を進めていく必要があります。

○なお、流域治水型の河川整備の考え方を反映した河川整備計画の改定にあたっては、関係自治体、流域住民等の流域全体のあらゆる関係者と協働して取り組む必要があるため、関係者と調整しつつ検討を深めていきたいと考えています。

(参考)河川整備基本方針及び河川整備計画において目標としている流量

	基準地点	河川整備基本方針[m ³ /s]				河川整備計画[m ³ /s]			
		基本高水	洪水調節	計画高水	(備考)	目標流量	洪水調節	河道整備	(備考)
木曾川	犬山	19,500	6,000	13,500	確率規模 1/200	16,500	4,000	12,500	昭和58年9月 洪水対応
長良川	忠節	8,900	600	8,300	確率規模 1/100	8,100	400	7,700	平成16年10月 洪水対応
揖斐川	万石	6,300	2,400	3,900	確率規模 1/100	4,500	600	3,900	平成14年7月 洪水対応
						5,000	1,500	3,500	昭和50年8月 洪水対応